

## ii 障がいのない人の調査結果

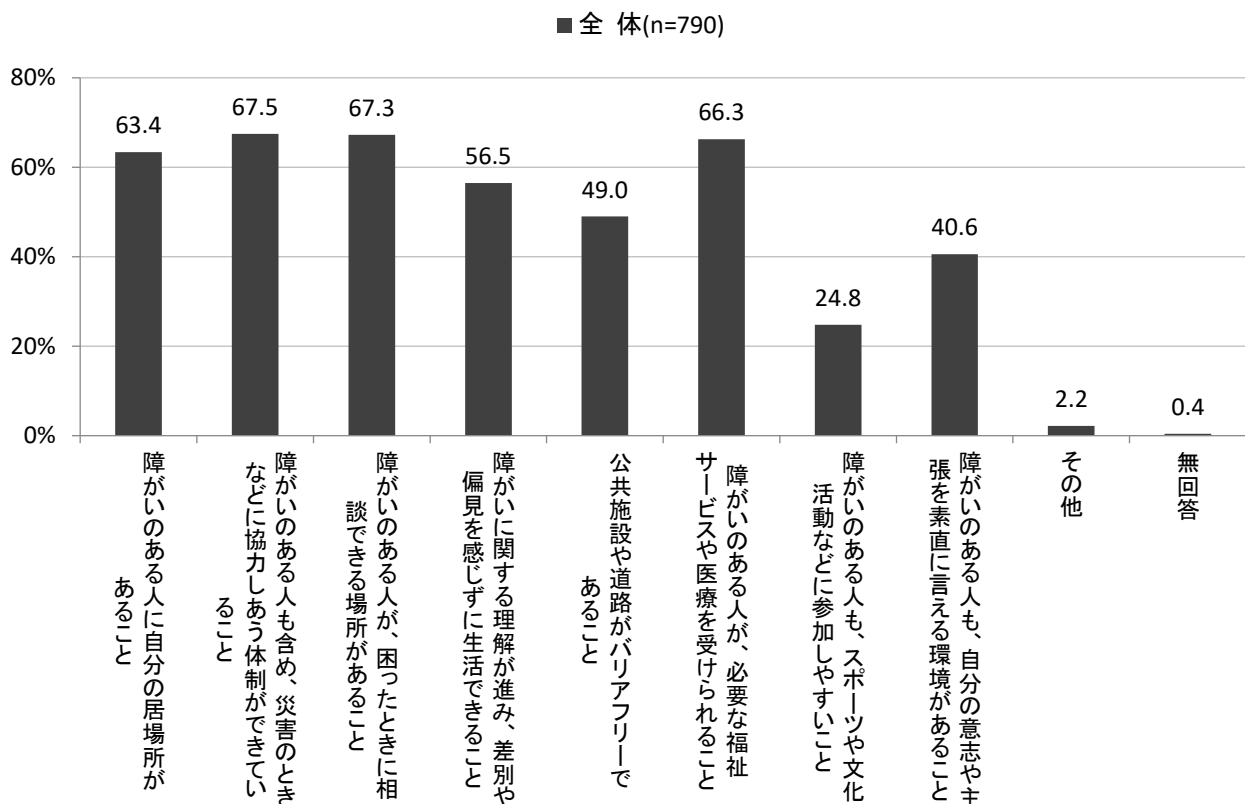
### 1. 地域での生活について

#### (1) 地域における共生

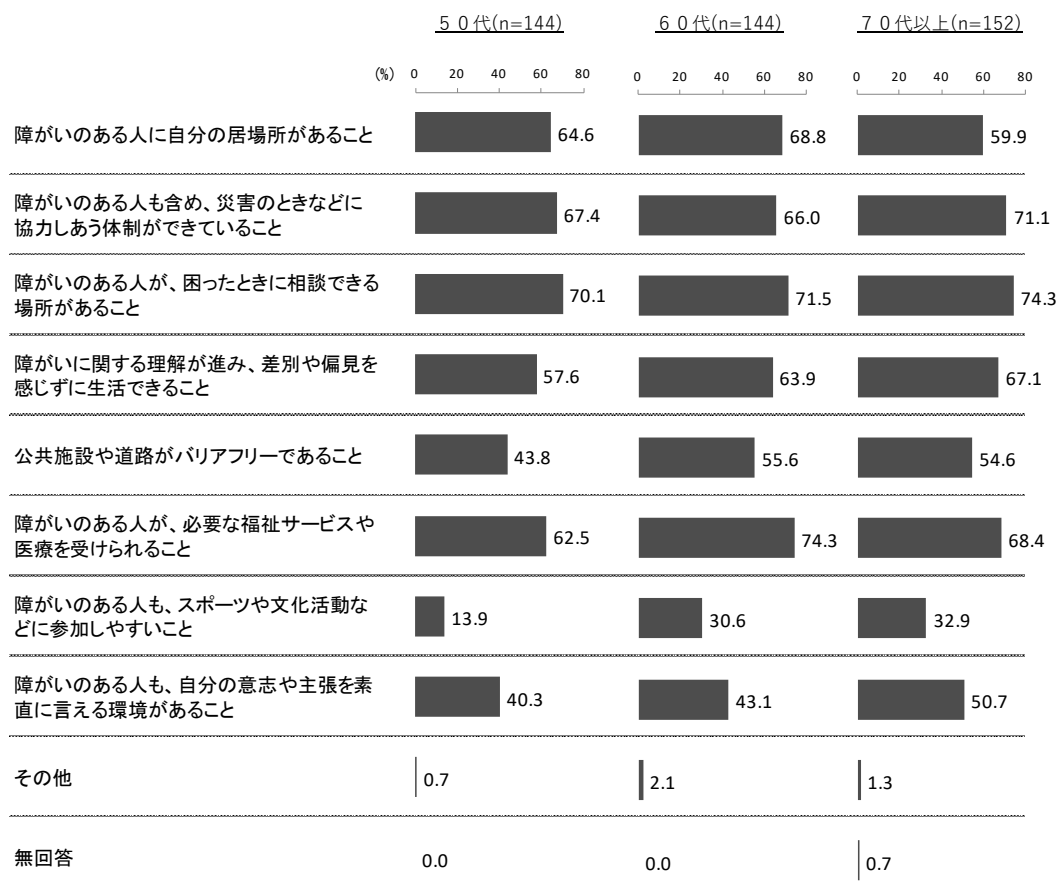
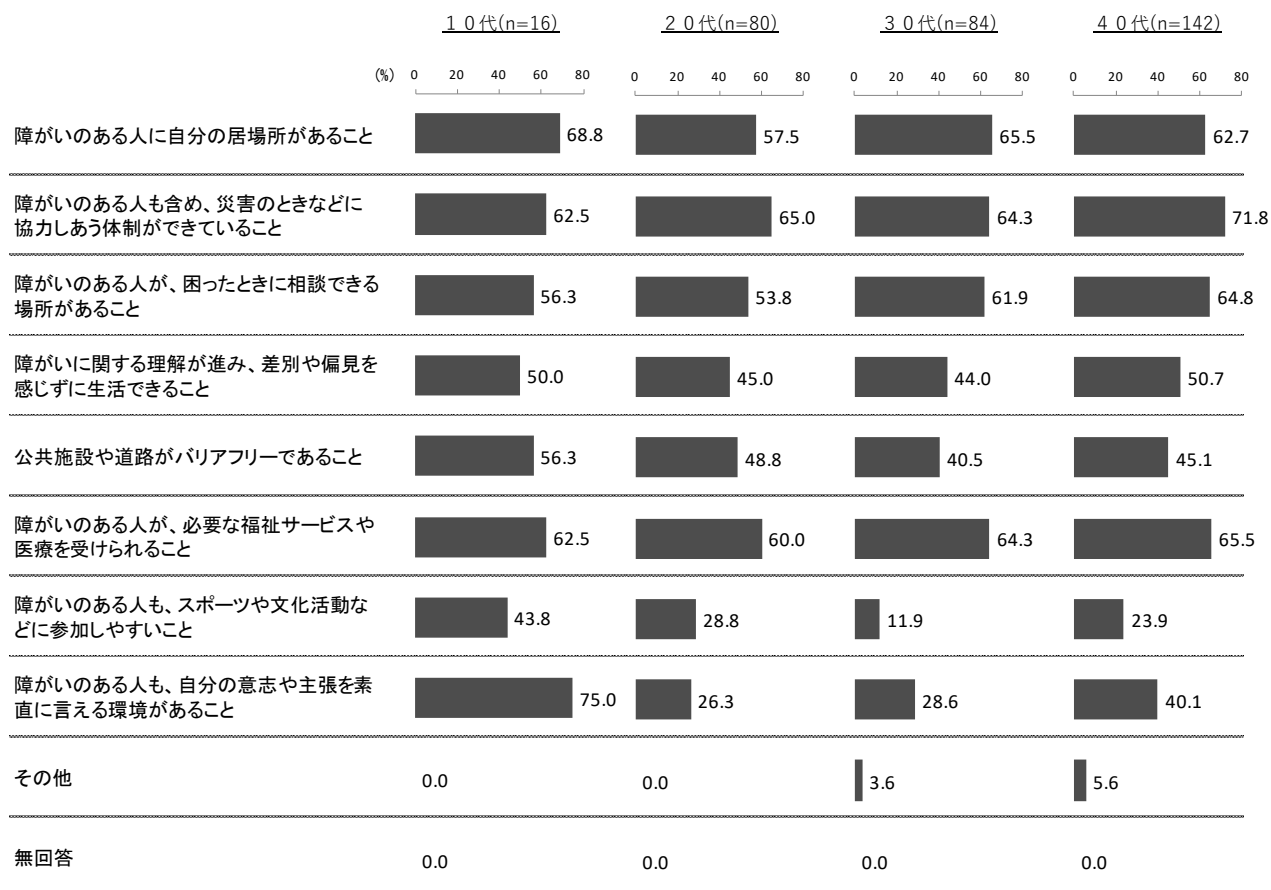
問1 あなたにとって、「地域における共生」を進める上で、特に重要だと思うことはなんですか。(いくつでも)

「地域における共生」を進める上で、特に重要だと思うことについては、「障がいのある人も含め、災害のときなどに協力しあう体制ができていること」67.5%が最も高くなっている。次いで「障がいのある人が、困ったときに相談できる場所が地域にあること」67.3%、「障がいのある人が、必要な福祉サービスや医療を受けられること」66.3%の順となっている。

年齢別で見ると、「障がいのある人も含め、災害のときなどに協力しあう体制ができていること」、「障がいのある人が、必要な福祉サービスや医療を受けられること」は全年代で6割以上と高くなっている。「障がいのある人が、困ったときに相談できる場所があること」は年代を追うにつれて高くなる傾向にあり、50代以上では7割以上となっている。



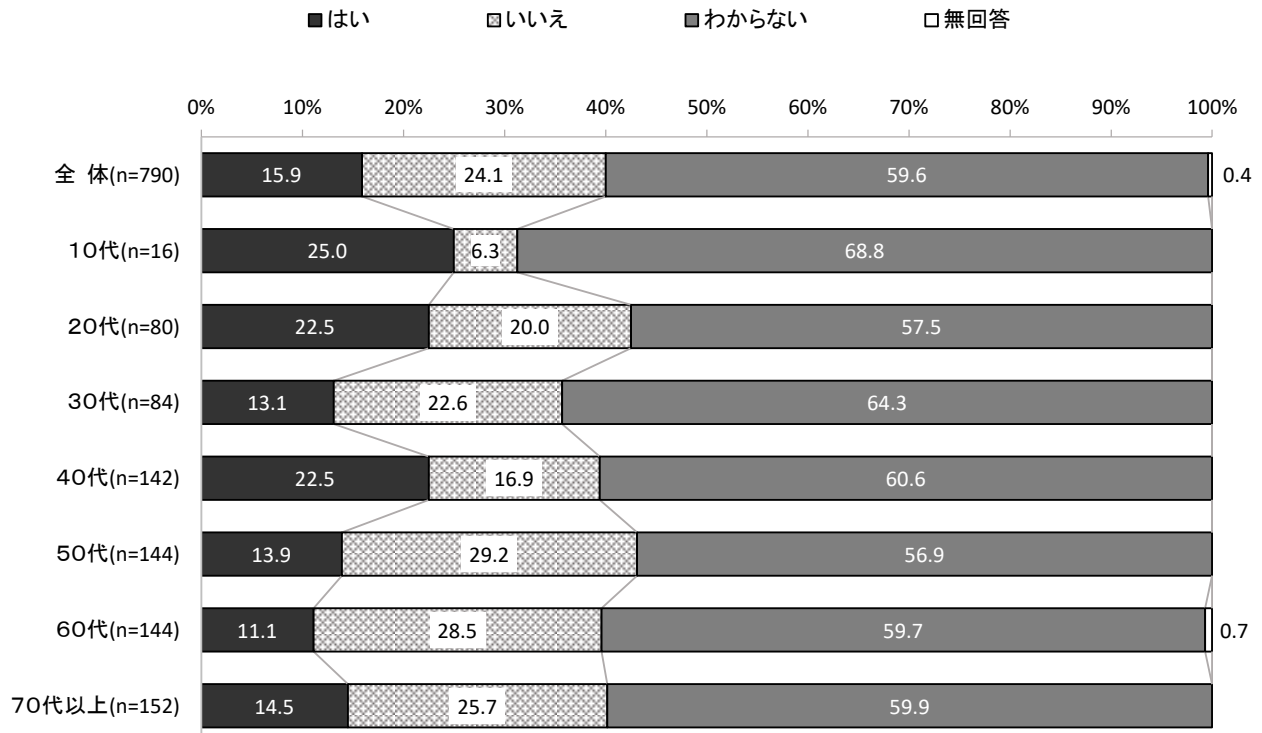
<年齢別>



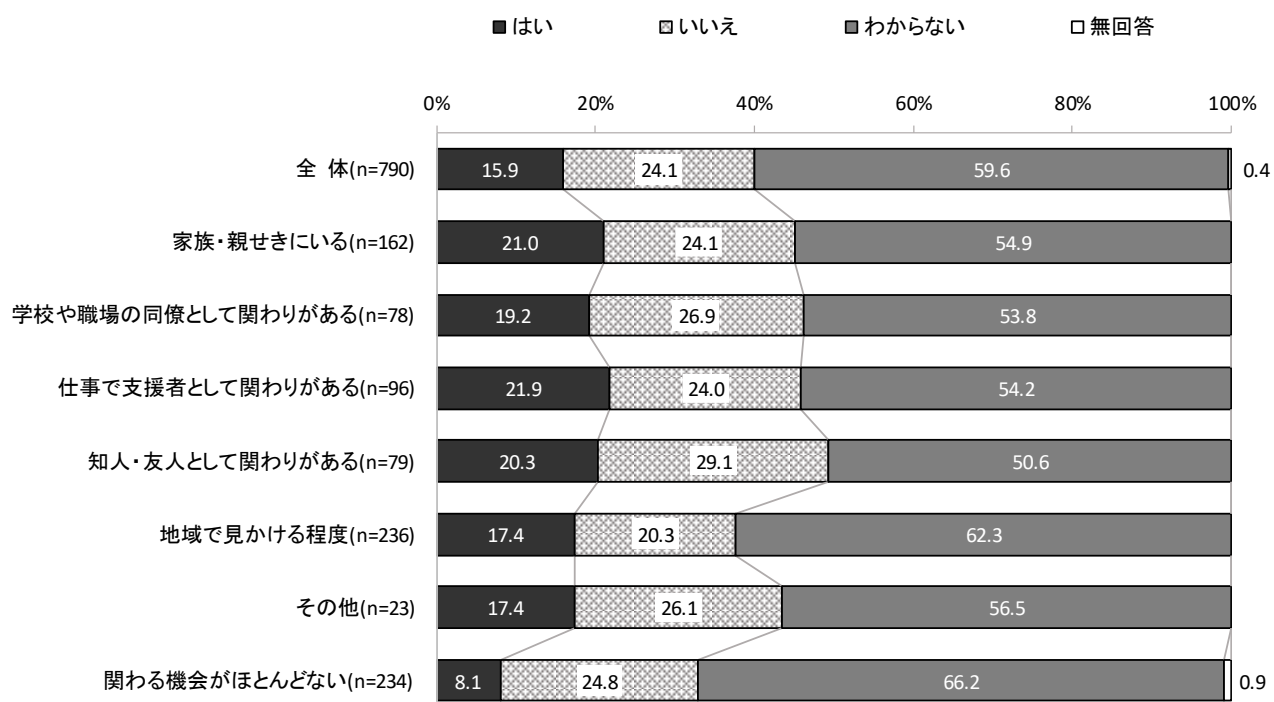
**問2 あなたの身近では「地域における共生」が進んでいると思いますか。「地域における共生」の具体的な例は、前問の選択肢を参考にお答えください。(ひとつだけ)**

「地域における共生」が進んでいると思うかについては、「はい」15.9%、「いいえ」24.1%となっている。

障がいのある人との関わり状況別でみると、障がいのある人と何らかの関わりがある人では、進んでいると感じる人はおよそ2割となっており、関わる機会がほとんどない人では、1割未満となっている。



<障がいのある人との関わり状況別>

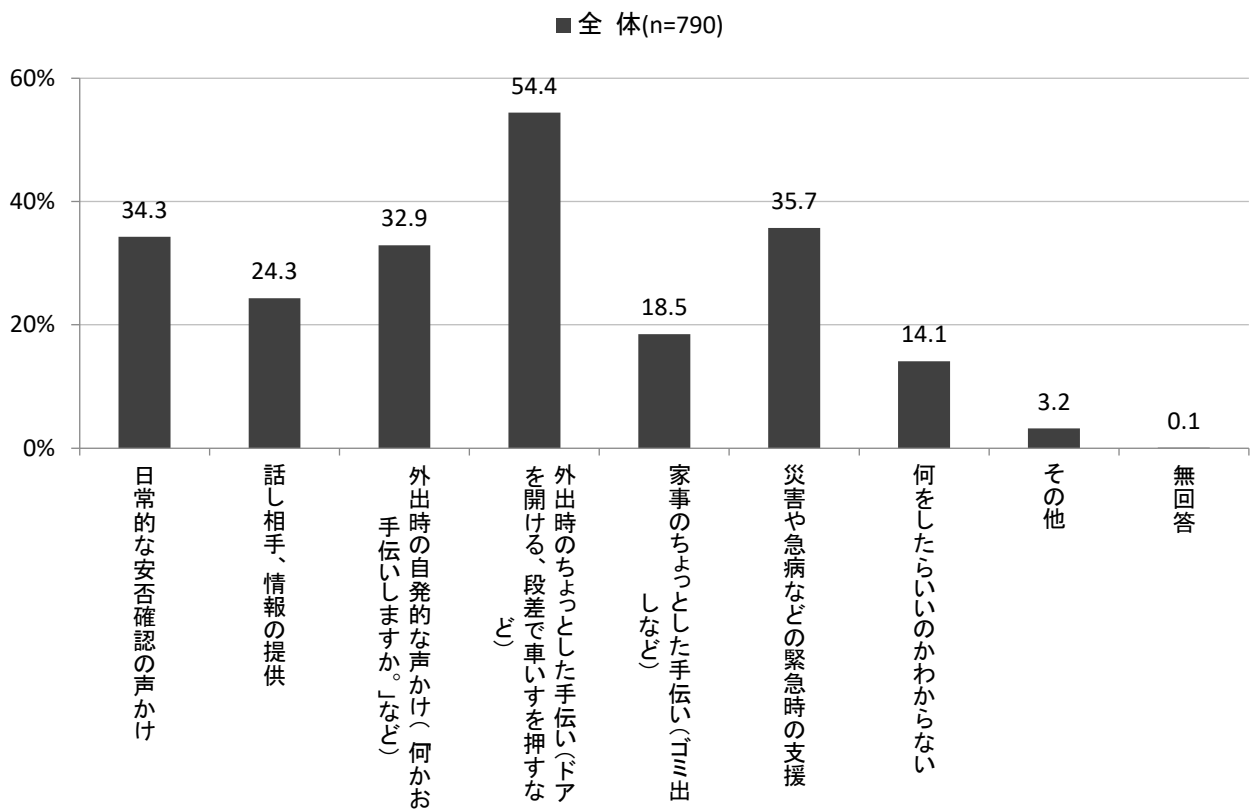


**問3 お住まいの地域で障がいのある人が困っているときに、あなたがその人に対してできることはなんですか。(いくつでも)**

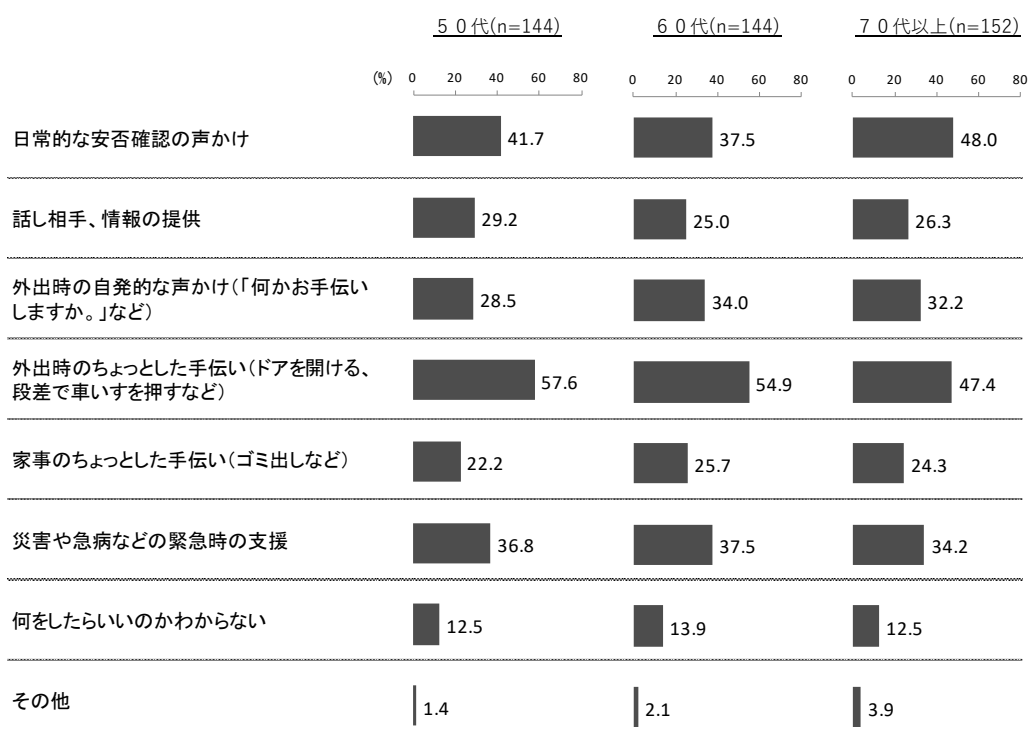
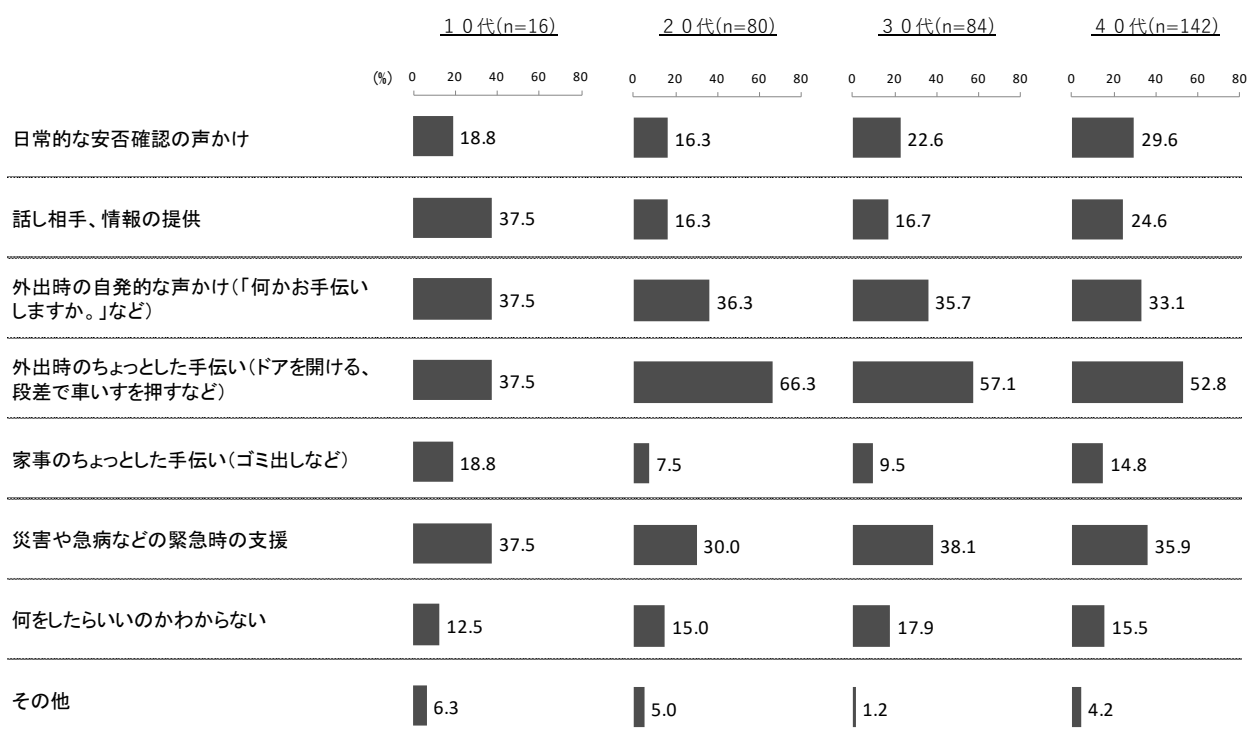
障がいのある人のためにできることとしては、「外出時のちょっとした手伝い」54.4%、「災害や急病などの緊急時の支援」35.7%、「日常的な安否確認の声かけ」34.3%、「外出時の自発的な声かけ」32.9%、「話し相手、情報の提供」24.3%、「ちょっとした家事の手伝い」18.5%の順となっている。

年齢別で見ると、「外出時のちょっとした手伝い」は70代以上を除く年代で最も高くなっている。10代では、「外出時のちょっとした手伝い」と並んで「話し相手、情報の提供」「外出時の自発的な声かけ」「災害や急病などの緊急時の支援」が高くなっている。70代以上では、「日常的な安否確認の声かけ」が最も高くなっている。

障がいのある人との関わり状況別で見ると、「外出時のちょっとした手伝い」がどの層でもおよそ5割以上で最も高くなっている。知人・友人として関わりがある人では、「日常的な安否確認の声かけ」59.5%も高くなっている。

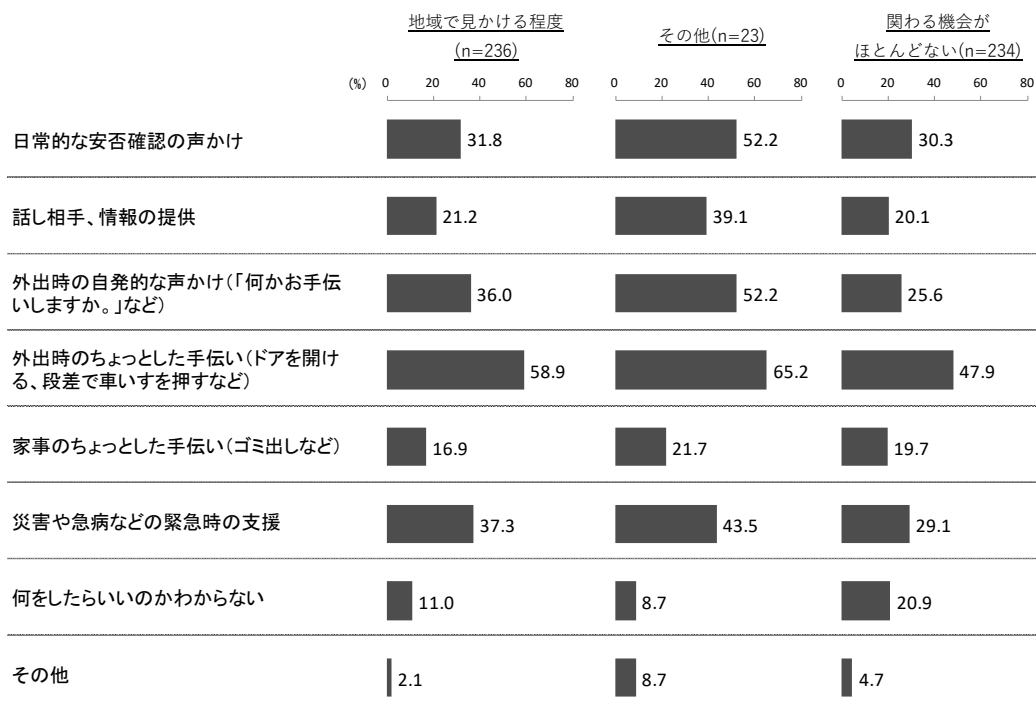
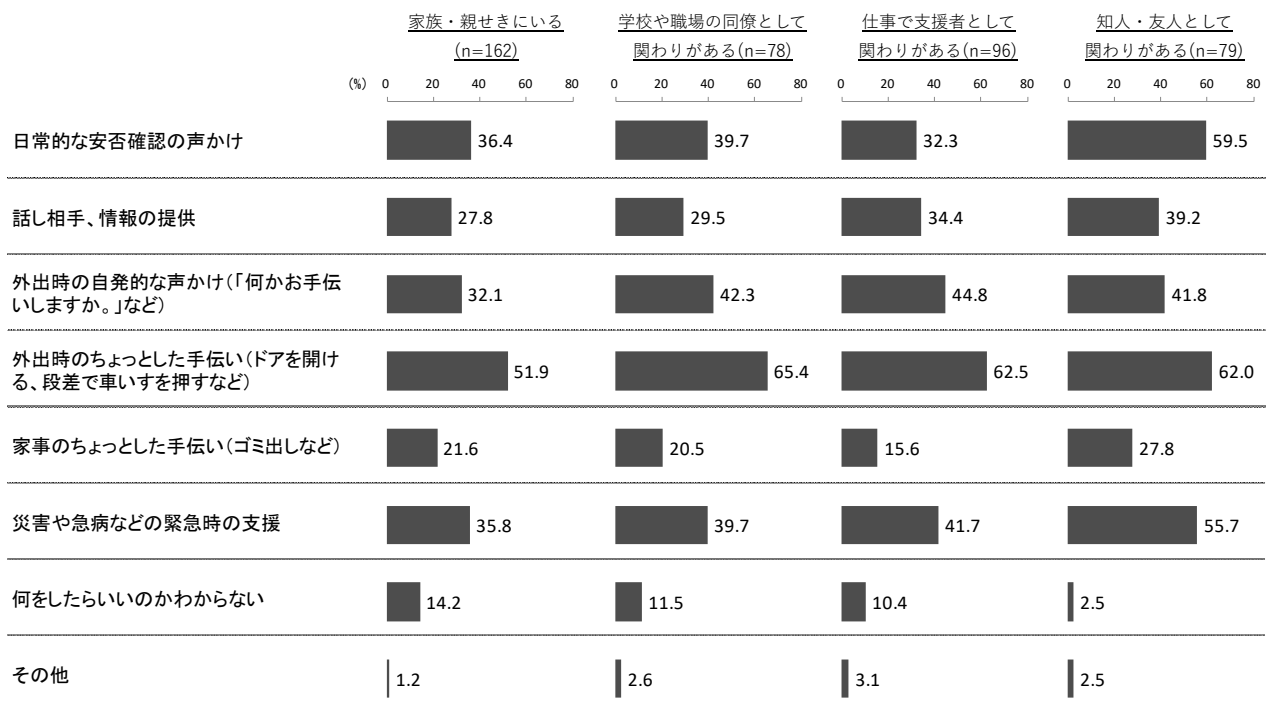


<年齢別>



※「無回答」は件数0のため省略

<障がいのある人との関わり状況別>

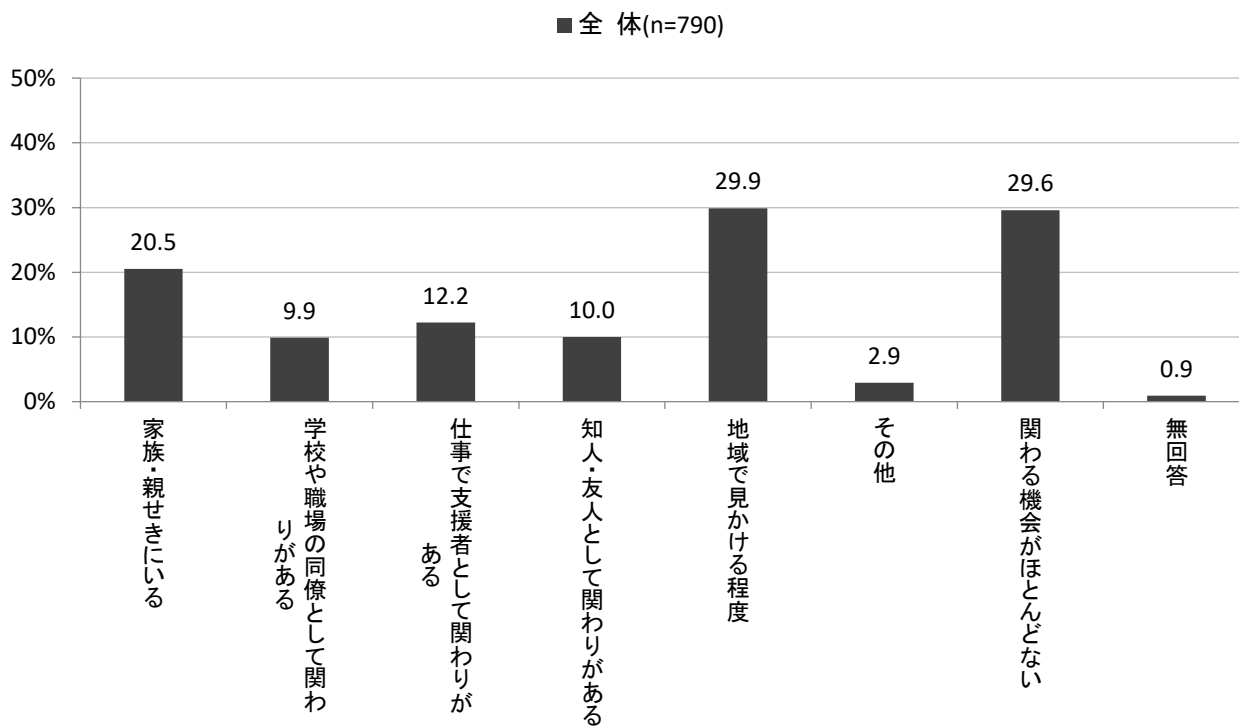


※「無回答」は件数0のため省略

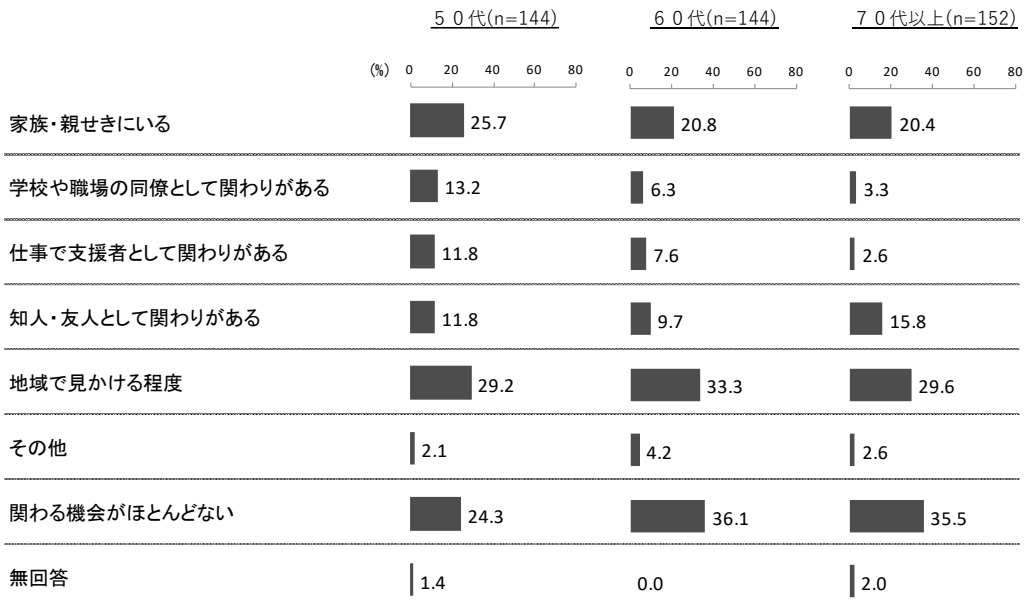
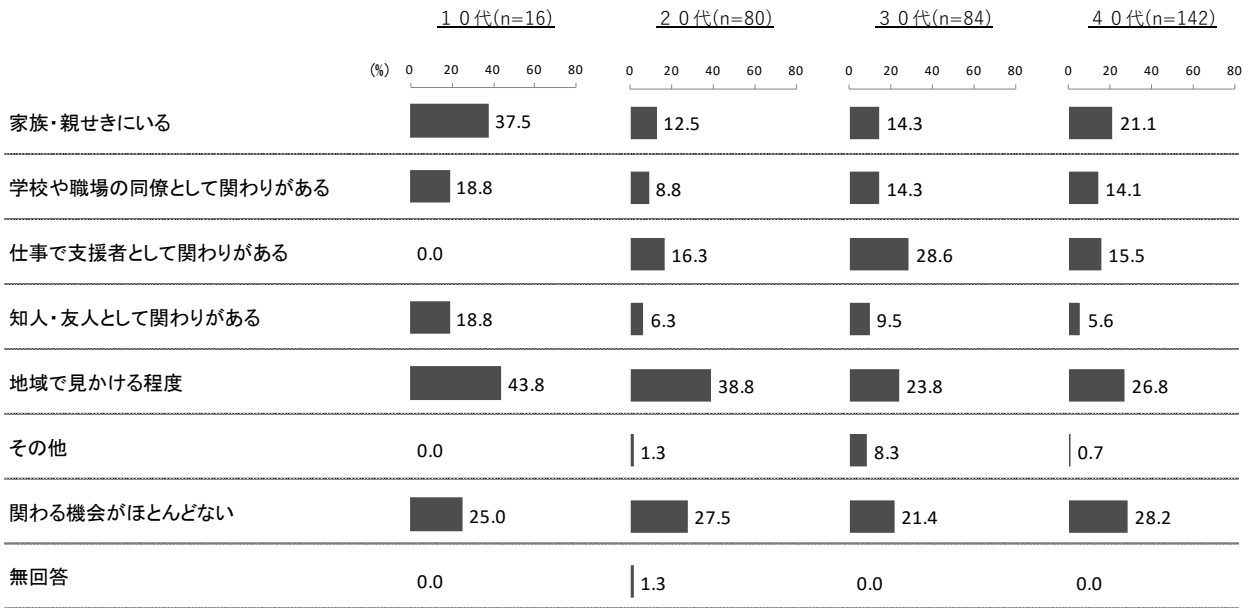
## (2) 障がいのある人との交流

## 問4 あなたは、日頃、障がいのある人と関わりはありますか。(いくつでも)

障がいのある人との交流については、「地域で見かける程度」29.9%、「家族・親せきにいる」は20.5%、「仕事で支援者として関わりがある」12.2%の順となっている。一方、「関わる機会がほとんどない」は29.6%となっている。



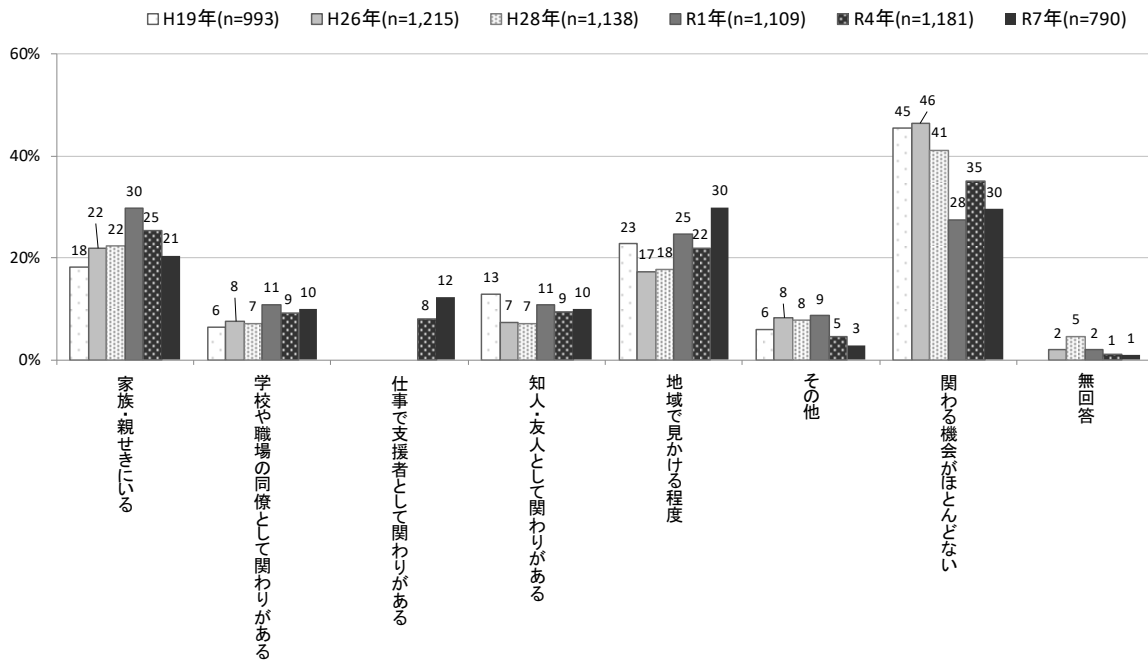
<年齢別>



<経年比較>

前回の調査結果と比べて、「学校や地域の同僚として」「仕事で支援者として」「知人・友人として」「地域で見かける程度」が増加している。

※「地域行事などの活動で関わりがある」「ボランティア活動で関わりがある」は今回の選択肢にないため割愛。

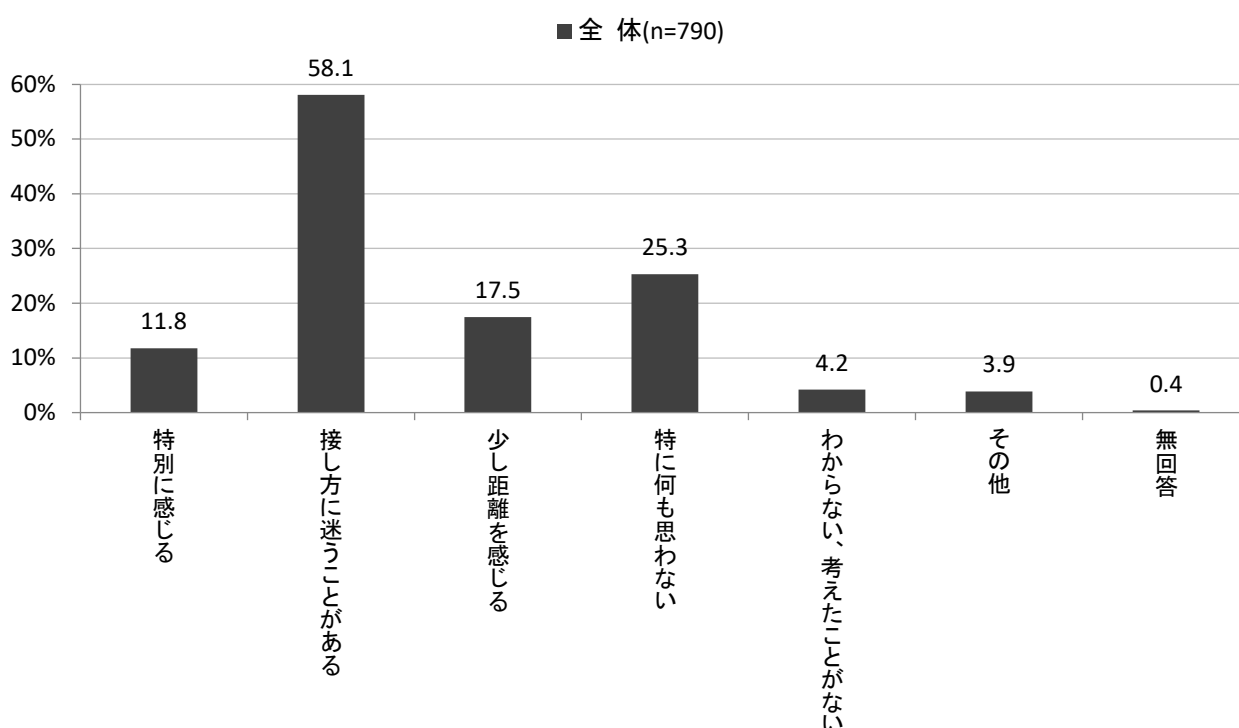


**問5 あなたは、障がいや、障がいのある人に対して、主にどのようなイメージをもっていますか。(いくつでも)**

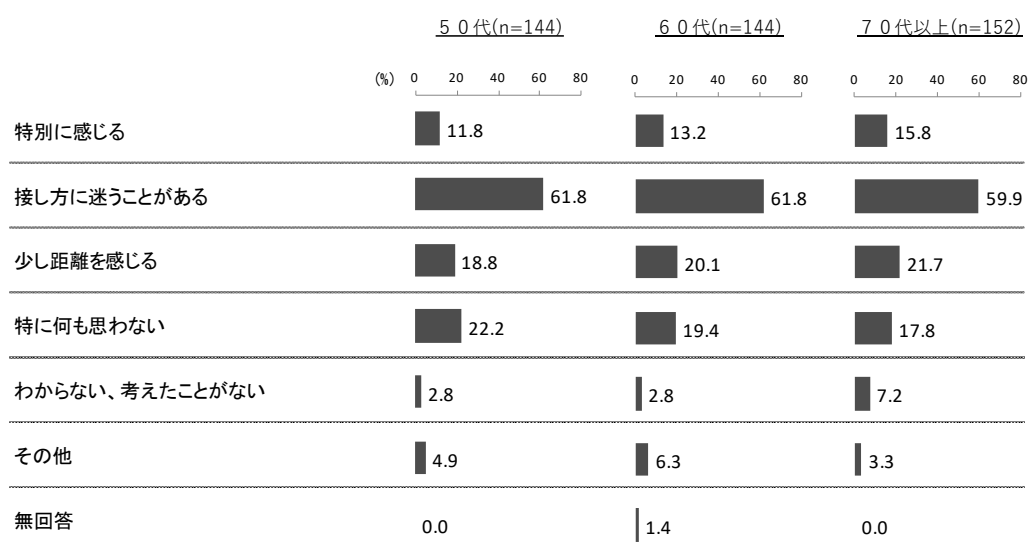
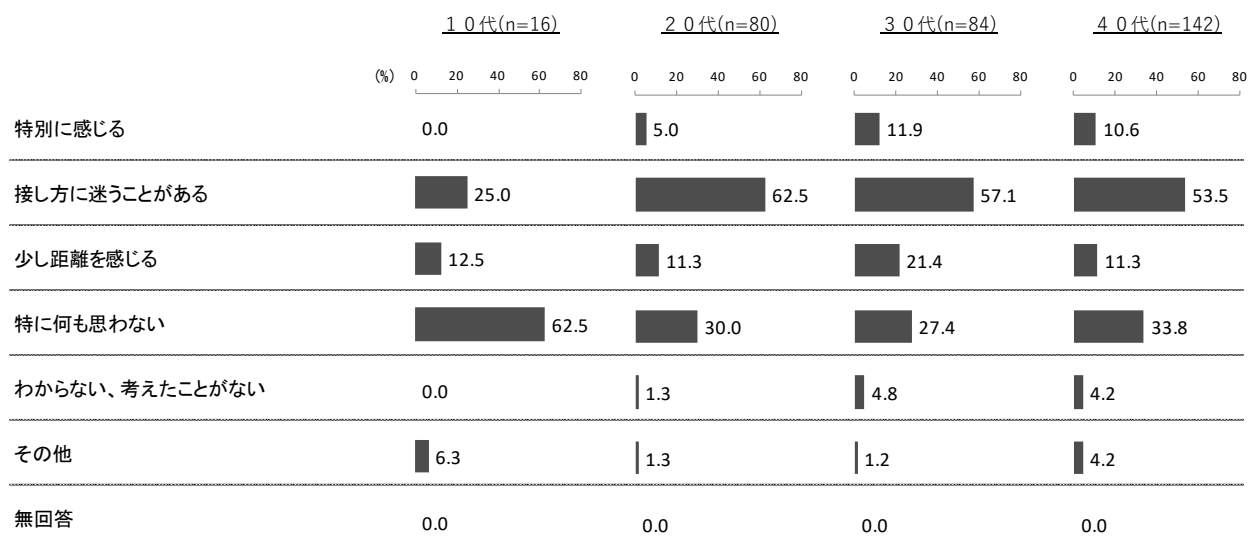
障がいや、障がいのある人に対するイメージについては、「接し方に迷うことがある」58.1%が最も高く、次いで「特に何も思わない」25.3%、「少し距離を感じる」17.5%となっている。

年齢別で見ると、10代は、「特に何も思わない」62.5%が最も高く、20代以上は、「接し方に迷うことがある」が最も高くなっている。

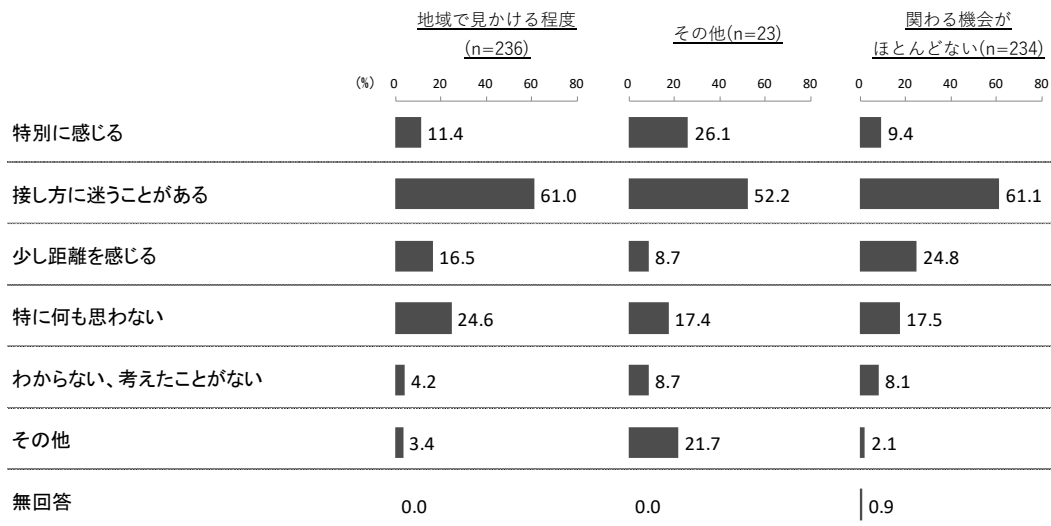
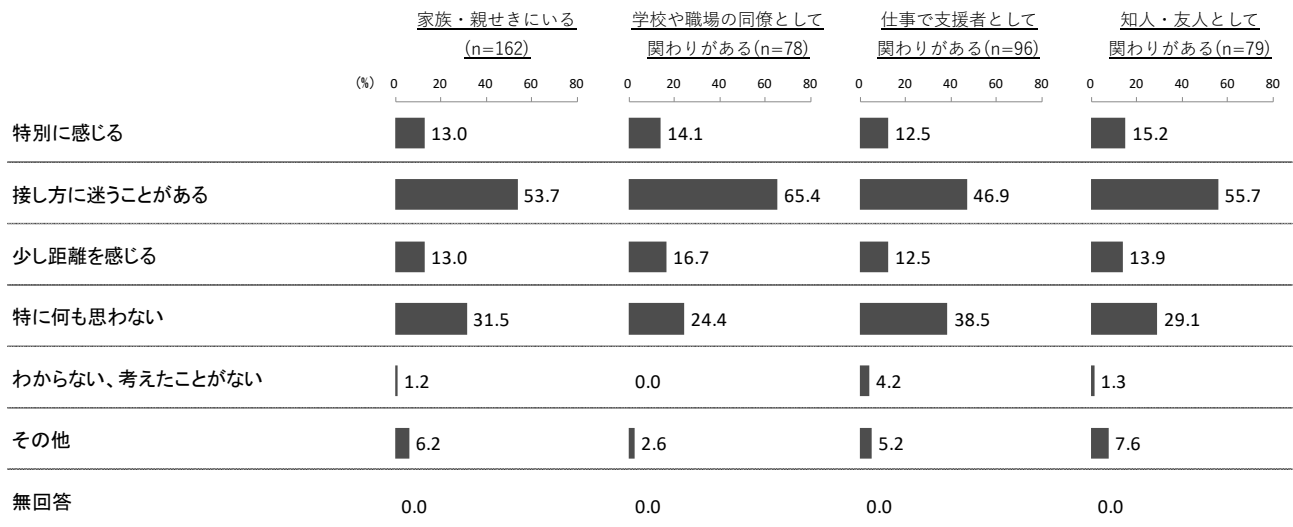
障がいのある人との関わり状況別で見ると、「接し方に迷うことがある」がどの層でも最も高くなっている。仕事で支援者として関わりがある人は、「特に何も思わない」38.5%も高くなっている。



<年齢別>



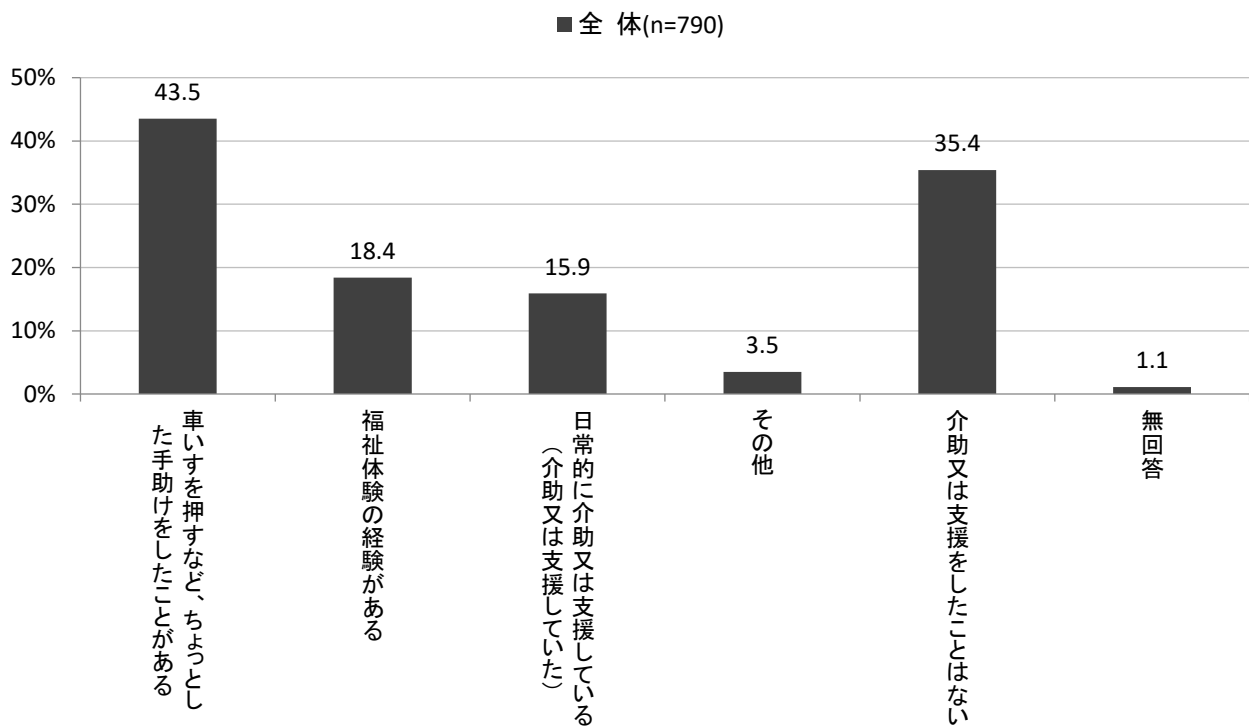
<障がいのある人との関わり状況別>



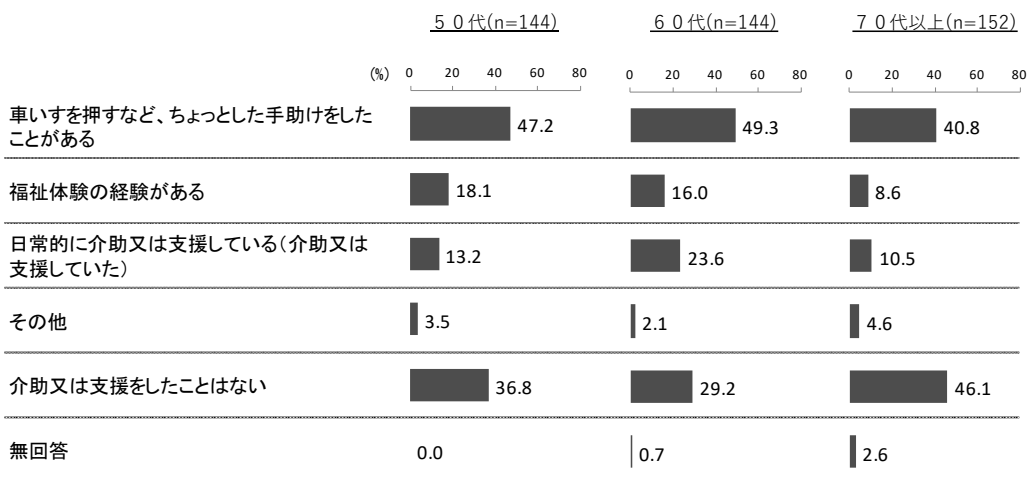
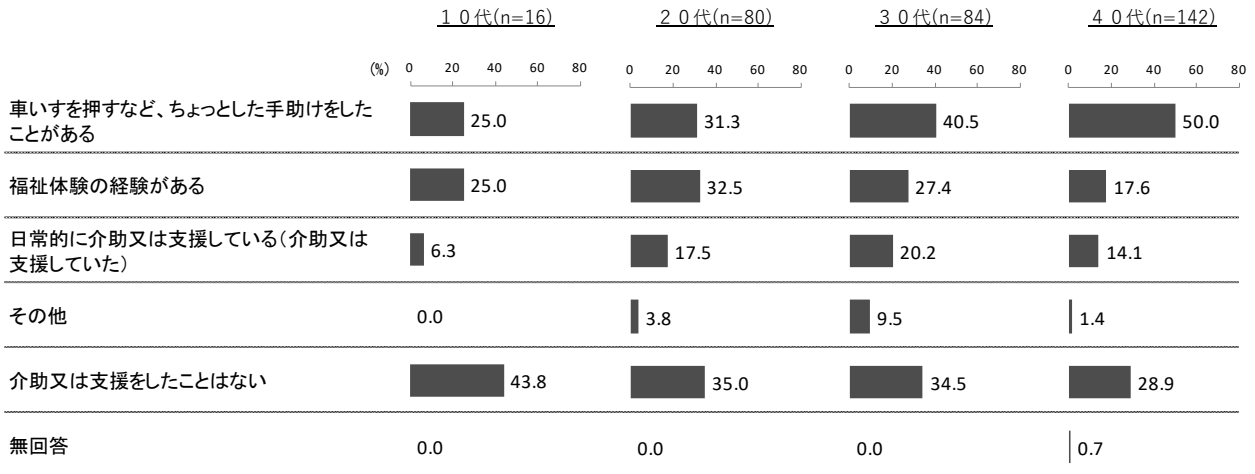
**問6 あなたは、障がいのある人の介助又は支援をしたことがありますか。(いくつでも)**

支援の内容では、「車いすを押すなど、ちょっとした手助け」43.5%が最も高く、次いで「福祉体験で経験がある」18.4%、「日常的に介助又は支援している」15.9%となっている。一方、「介助又は支援をしたことはない」は35.4%となっている。

年齢別で見ると、30代と60代では、「日常的に介助又は支援している」が2割台とやや高くなっている。また、20代では、「福祉体験の経験がある」32.5%が他の年代と比較して高くなっている。



<年齢別>



## 2. 障害福祉に対する意識について

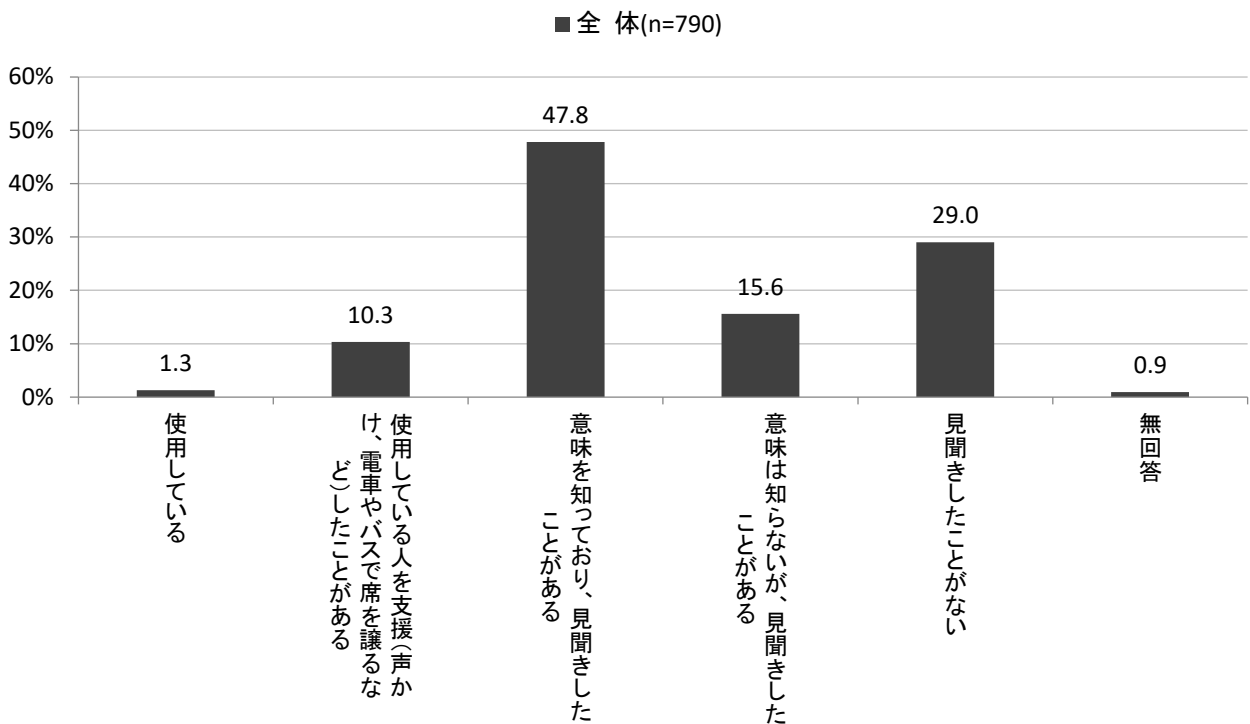
### (1) ヘルプマーク・ヘルプカードの認知

#### 問7 あなたは、「ヘルプマーク」を知っていますか。(いくつでも)

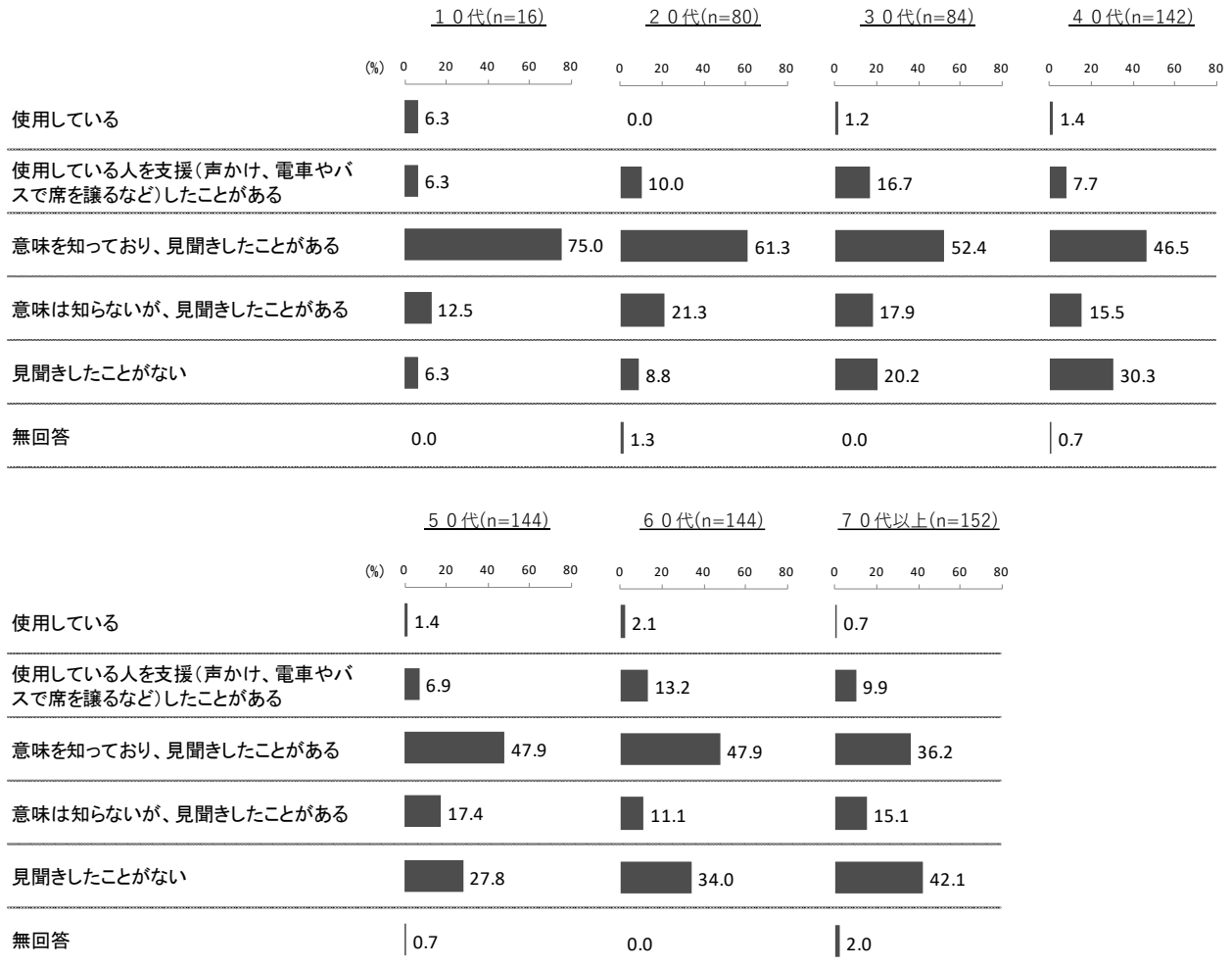
「意味を知っており、見聞きしたことがある」が最も多く、全体の47.8%となっている。次いで「見聞きしたことがない」29.0%、「意味は知らないが、見聞きしたことがある」15.6%となっている。

年齢別で見ると、10代・20代では、「意味を知っており、見聞きしたことがある」が6割を超え、他の年代に比べて高くなっている。

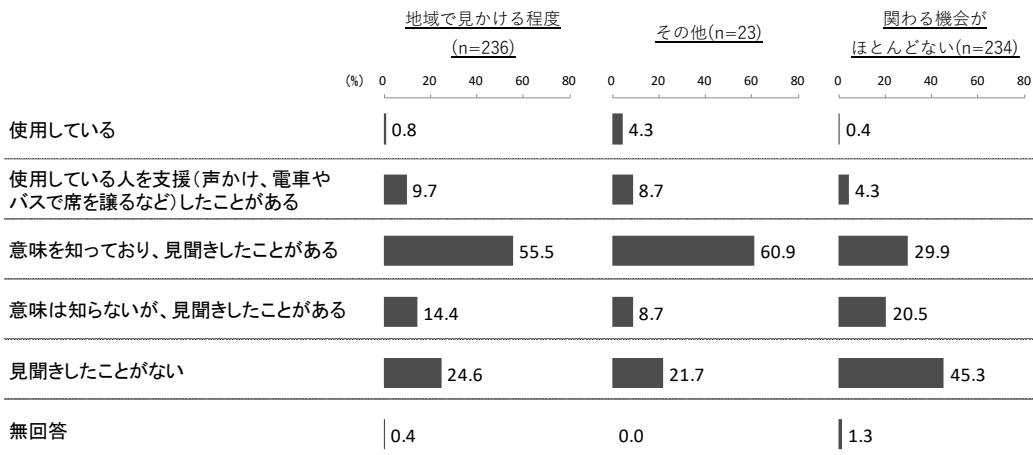
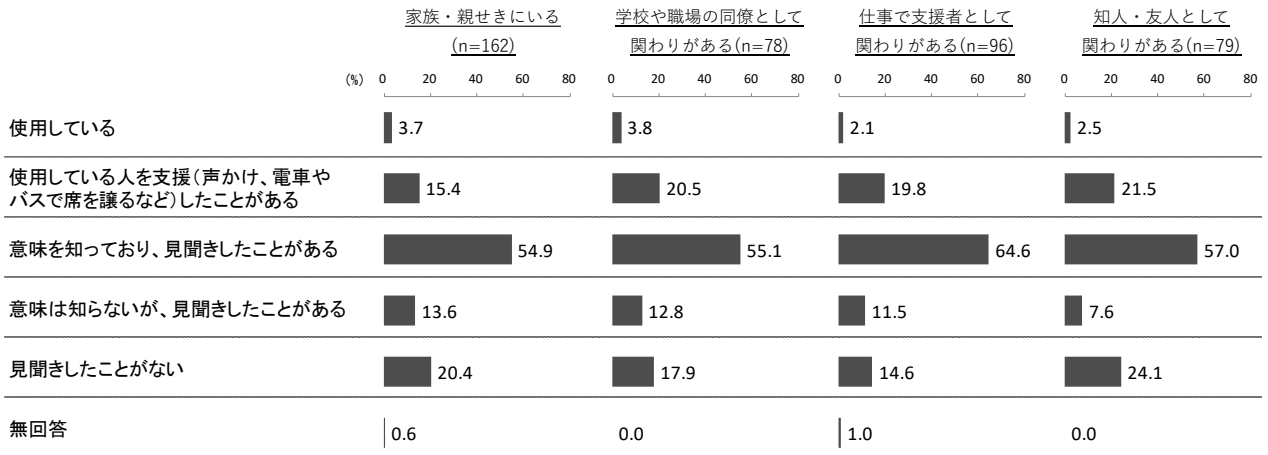
障がいのある人との関わり状況別で見ると、何らかの関わりがある人では、「使用している人を支援（声かけ、電車やバスで席を譲るなど）したことがある」がおよそ2割と、関わる機会がほとんどない人に比べて高くなっている。



<年齢別>



<障がいのある人との関わり状況別>

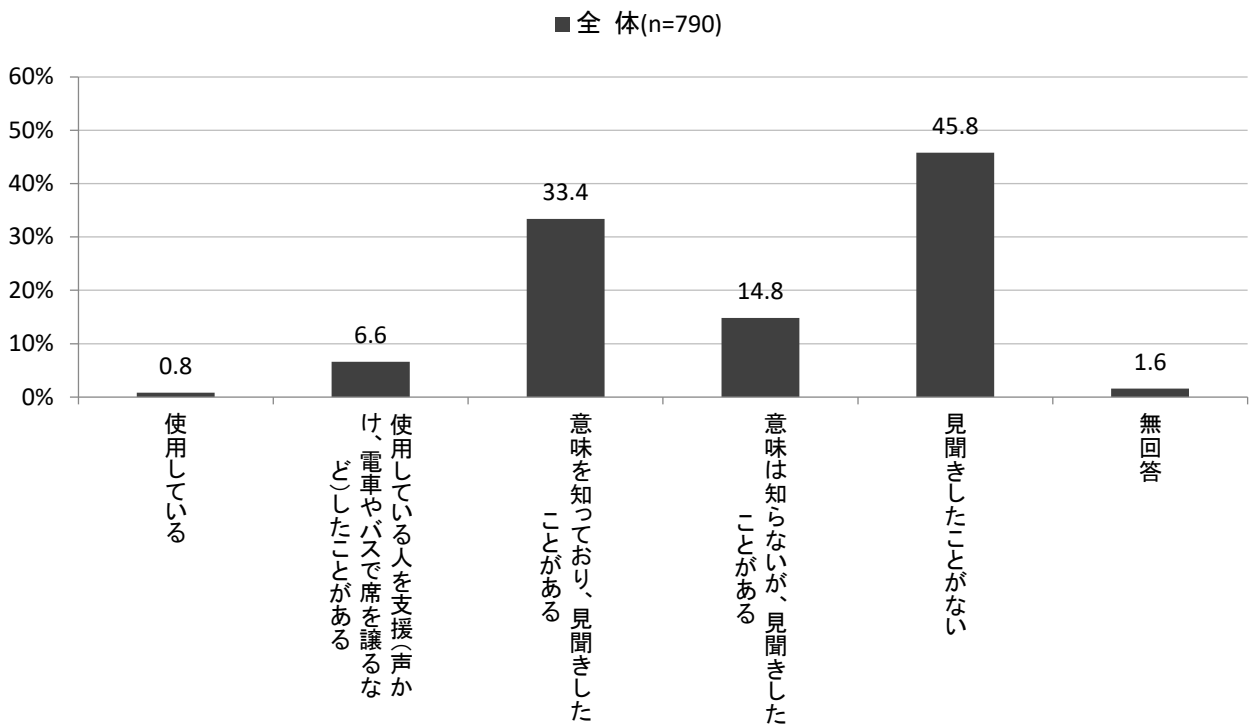


**問8 あなたは、「ヘルプカード」を知っていますか。(いくつでも)**

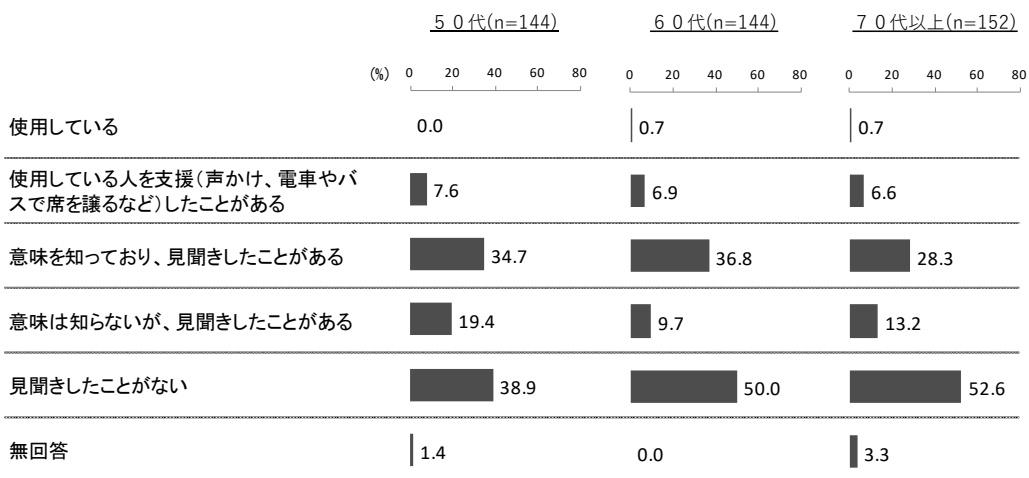
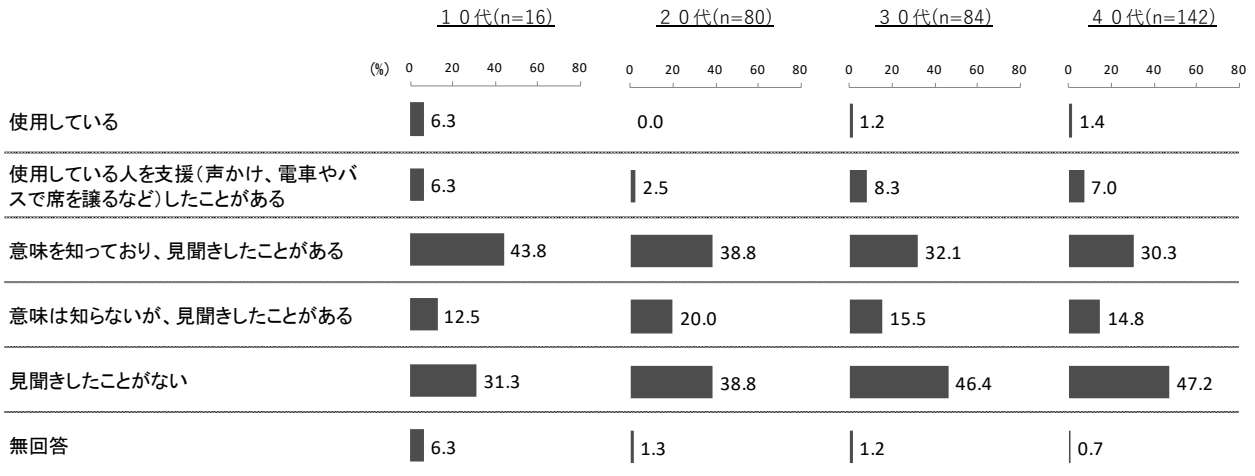
「見聞きしたことがない」が最も多く、全体の45.8%となっている。次いで「意味を知っており、見聞きしたことがある」33.4%、「意味は知らないが、見聞きしたことがある」14.8%となっている。

年齢別でみると、10代では、「意味を知っており、見聞きしたことがある」43.8%が他の年代に比べてやや高くなっている。

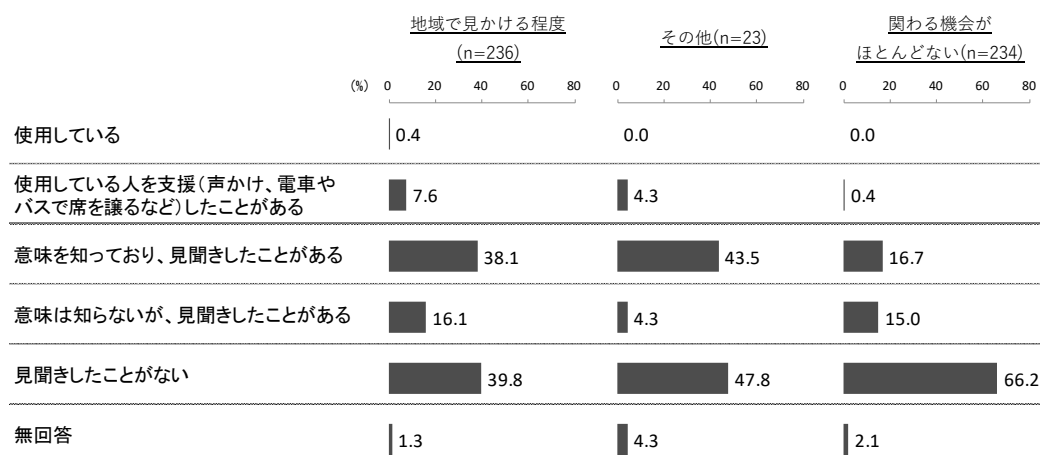
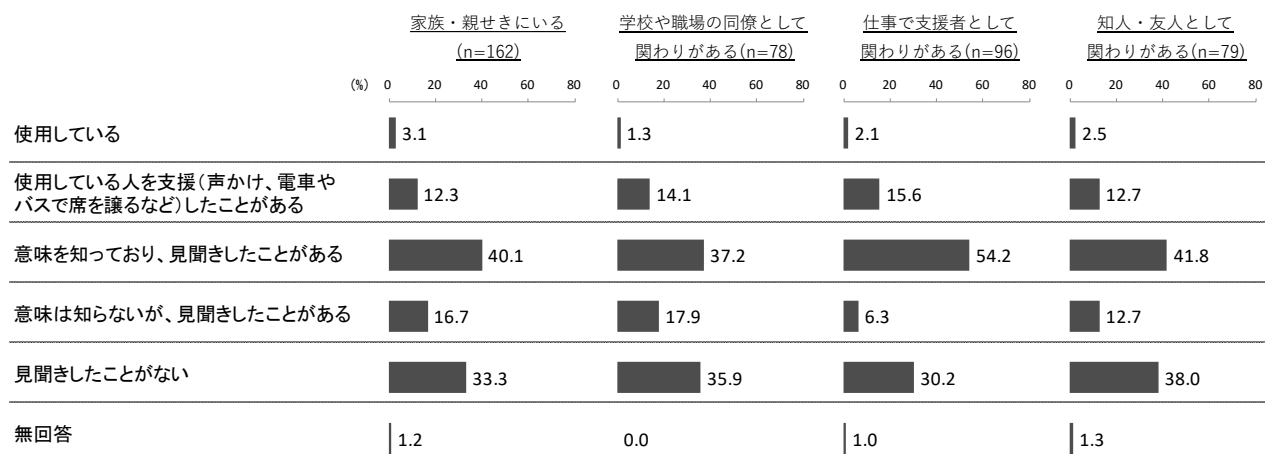
障がいのある人との関わり状況別でみると、何らかの関わりがある人たちでも「見聞きしたことがない」は3割と、ヘルプマークよりも認知度が低くなっている。



<年齢別>



<障がいのある人との関わり状況別>

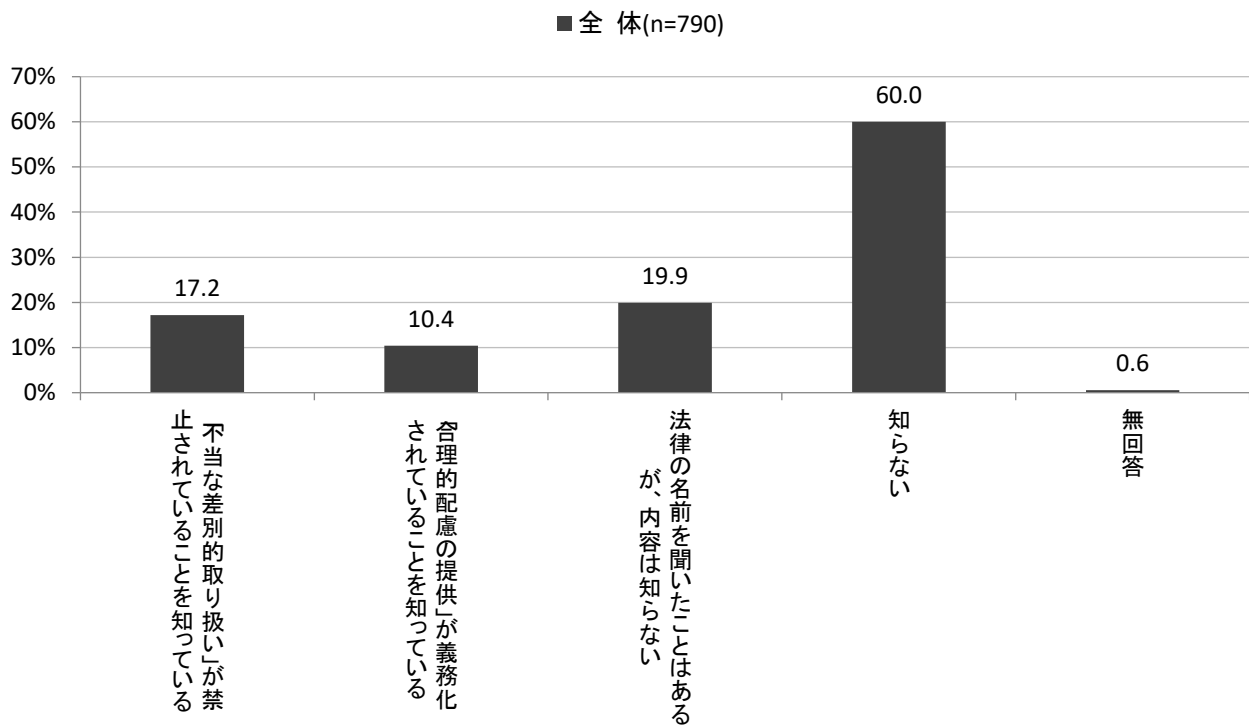


## (2) 障がいのある人への差別・偏見について

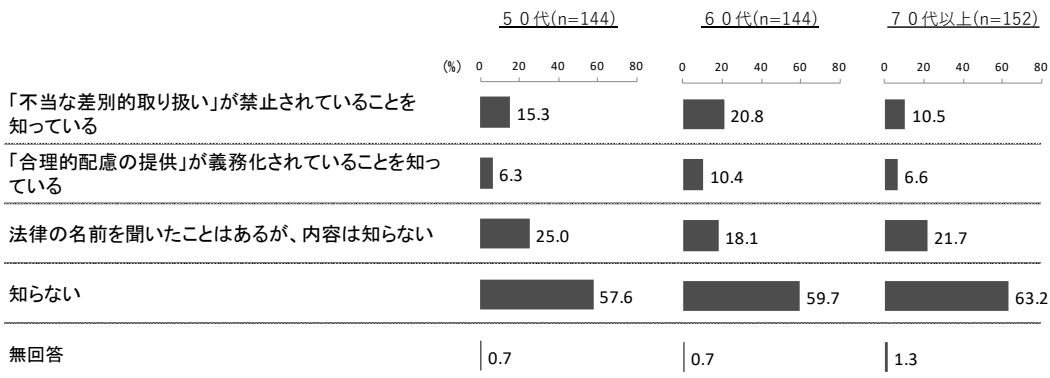
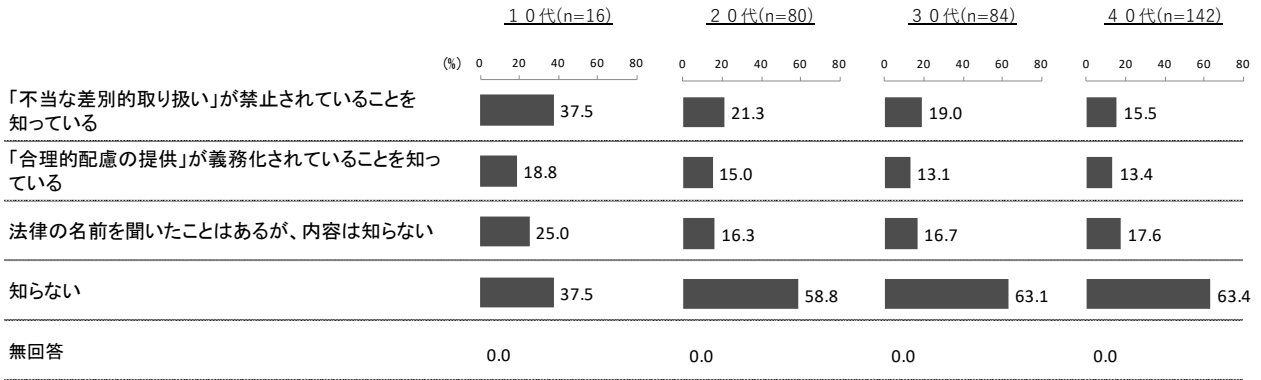
## 問9 あなたは、「障害者差別解消法」を知っていますか。(いくつでも)

「障害者差別解消法」を「知らない」は全体の60.0%となっている。知っている人はおよそ4割となっている。

年齢別で見ると、10代では、「不当な差別的取り扱いの禁止」や「合理的配慮の提供の義務化」といった、内容の認知度が他の年代より高くなっている。20代以上では、「知らない」がおよそ6割と、全体的に認知度が低くなっている。

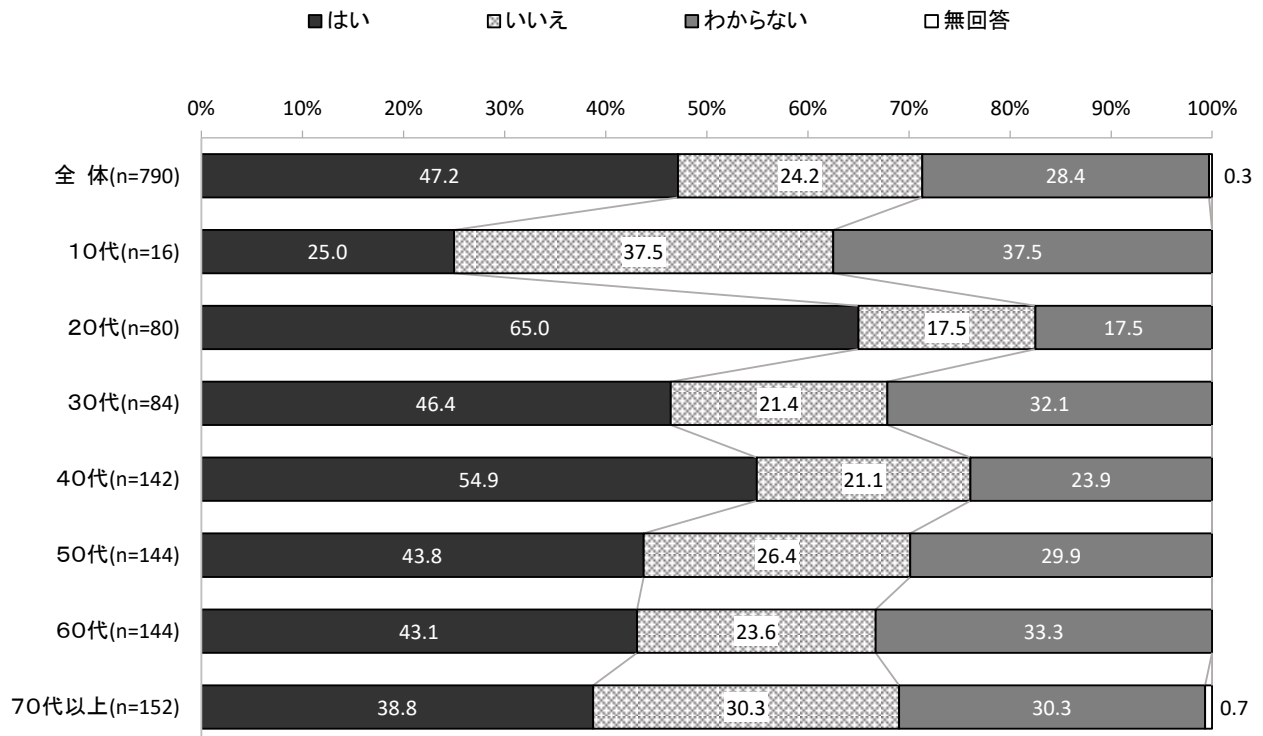


<年齢別>

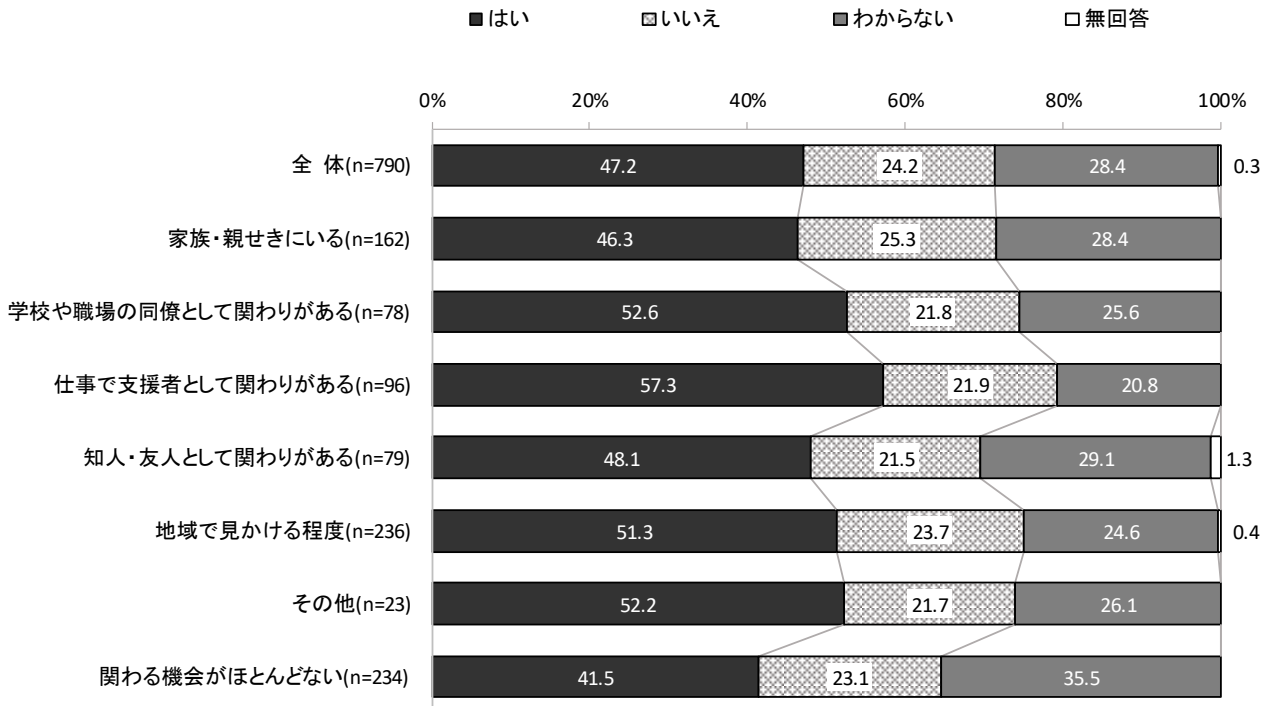


**問 10 あなたは、障がいのある人に対し、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。(ひとつだけ)**

障がいのある人への差別・偏見を多少なりとも感じている人は、全体の 47.2%となっている。20代・40代で「はい」が5割以上と高くなっている。一方、10代では差別・偏見がないと感じている人が 37.5%と他の年代と比べて高くなっている。

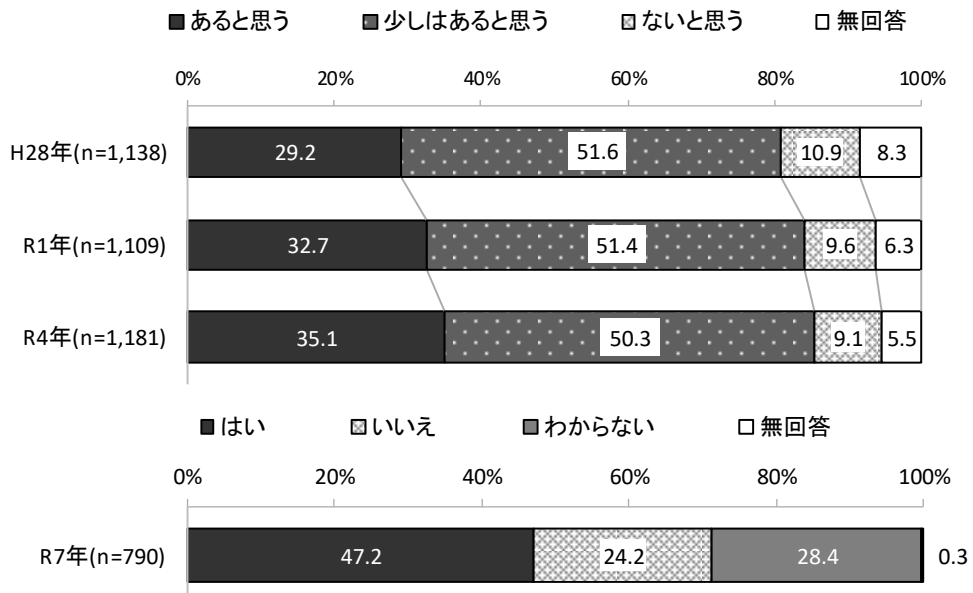


<障がいのある人との関わり状況別>



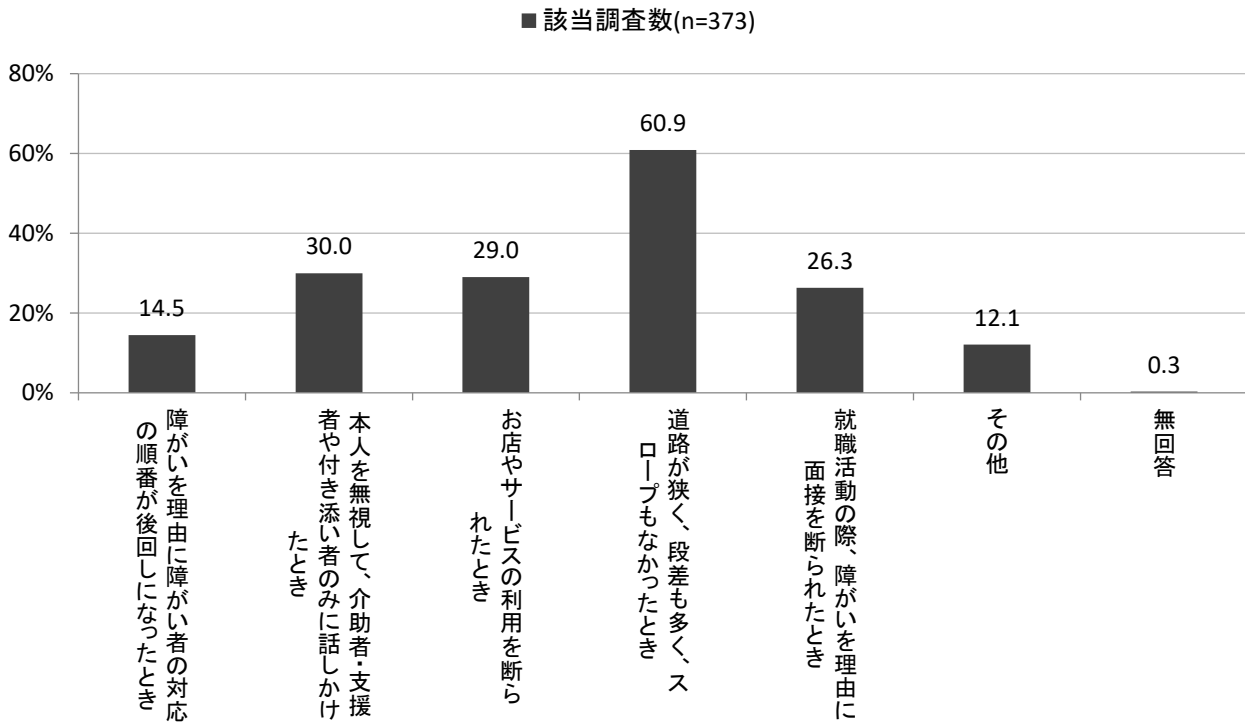
<経年変化>

過去の調査では選択肢が異なるため、参考として掲載する。

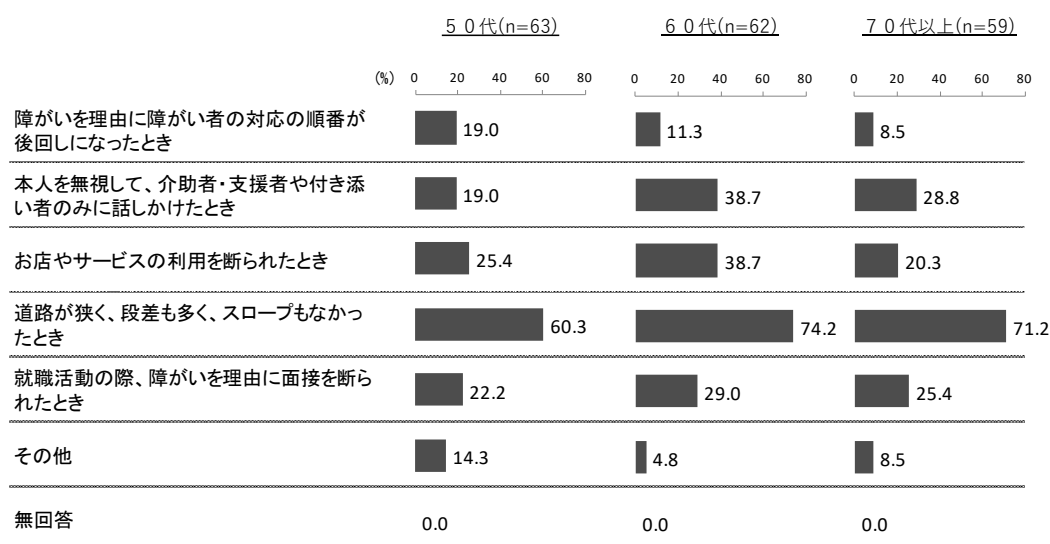
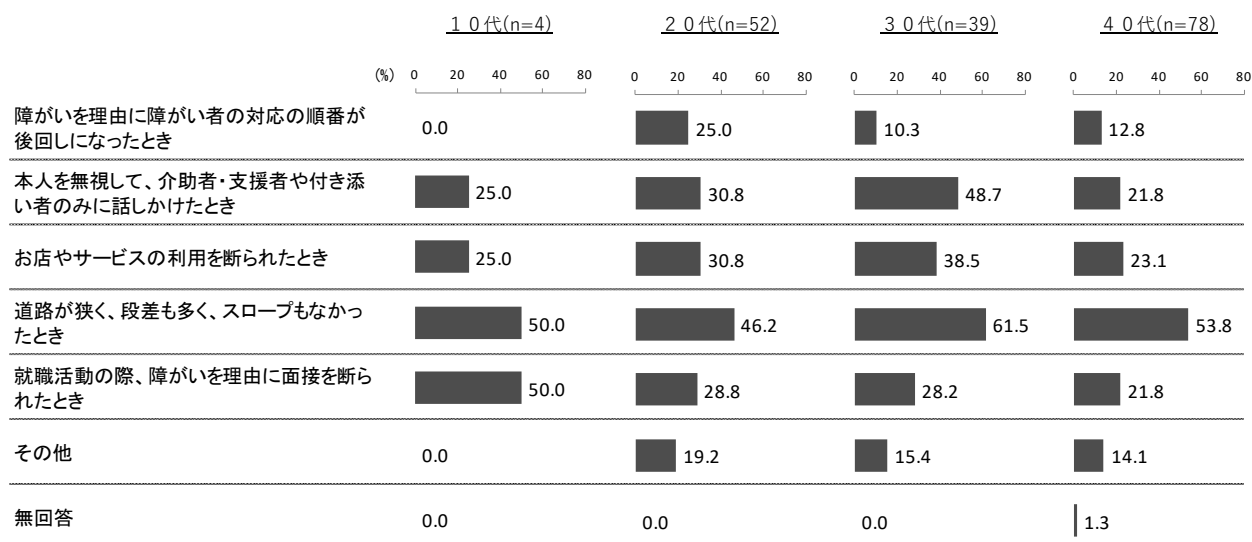


問 11 問 10 で「はい」の場合、障がいのある人に対して、差別や偏見があると感じるのは、どのようなときですか。  
(いくつでも)

差別・偏見があると答えた人に対し、どのような場面で感じるかをたずねたところ、「道路が狭く、段差も多く、スロープのなかったとき」60.9%が最も高くなっている。次いで「本人を無視して介助者・支援者や付き添い者のみに話しかけたとき」30.0%、「お店やサービスなどの利用を断られたとき」29.0%、「就職活動の際、障がいを理由に面接を断られたとき」26.3%となっている。

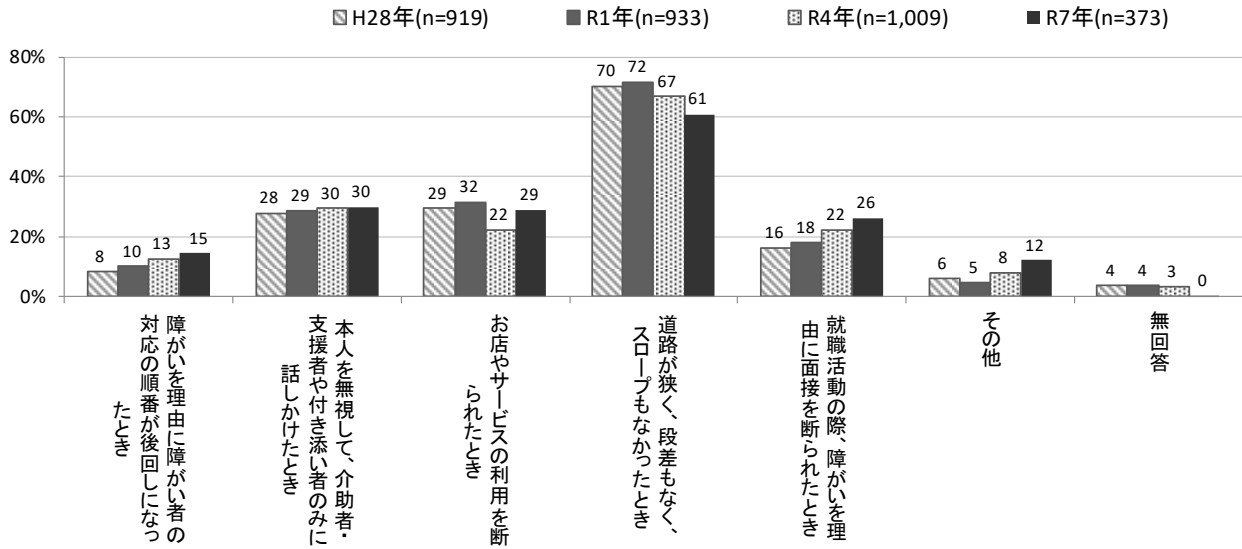


<年齢別>



<経年比較>

過去の調査結果と比べると、「道路が狭く、段差も多く、スロープのなかったとき」は減少傾向にあり、「障がい者を理由に障がい者の対応の順番が後回しになったとき」「就職活動の際、障がい者を理由に面接を断られたとき」は増加傾向となっている。



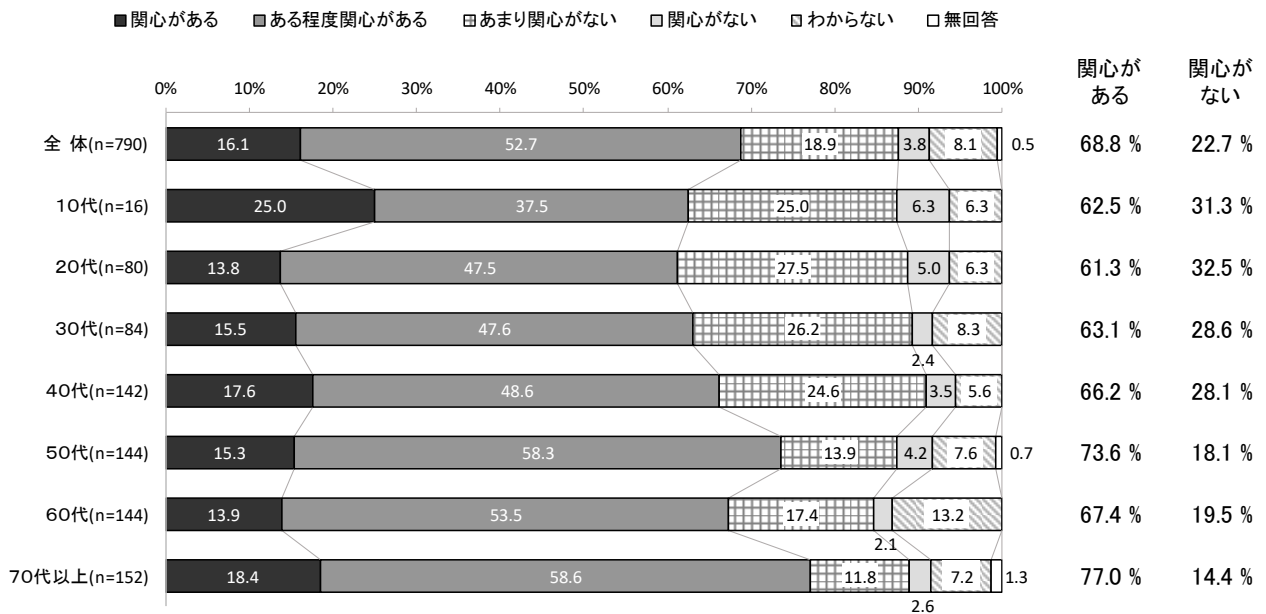
(3) 福祉への関心について

問 12 あなたは、福祉について関心がありますか。(ひとつだけ)

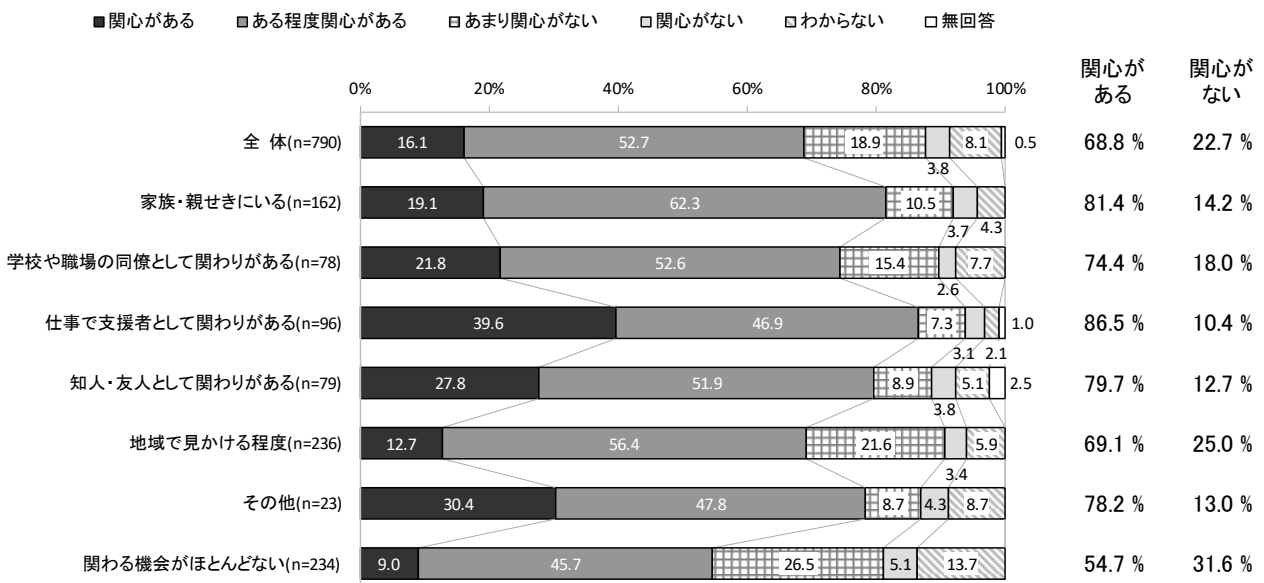
福祉への関心については、「関心がある」16.1%、「ある程度関心がある」52.7%と、関心のある人がおよそ7割となっている。

年齢別で見ると、関心がある人の割合は各年代で6割以上となっており、10代では、「関心がある」25.0%が他の年代と比べて高くなっている。

障がいのある人との関わり状況別で見ると、何らかの関わりがある人たちのほうが関わる機会がほとんどない人に比べて、関心のある割合が高く、家族・親せきにいる人、仕事で支援者として関わりがある人では、8割以上となっている。



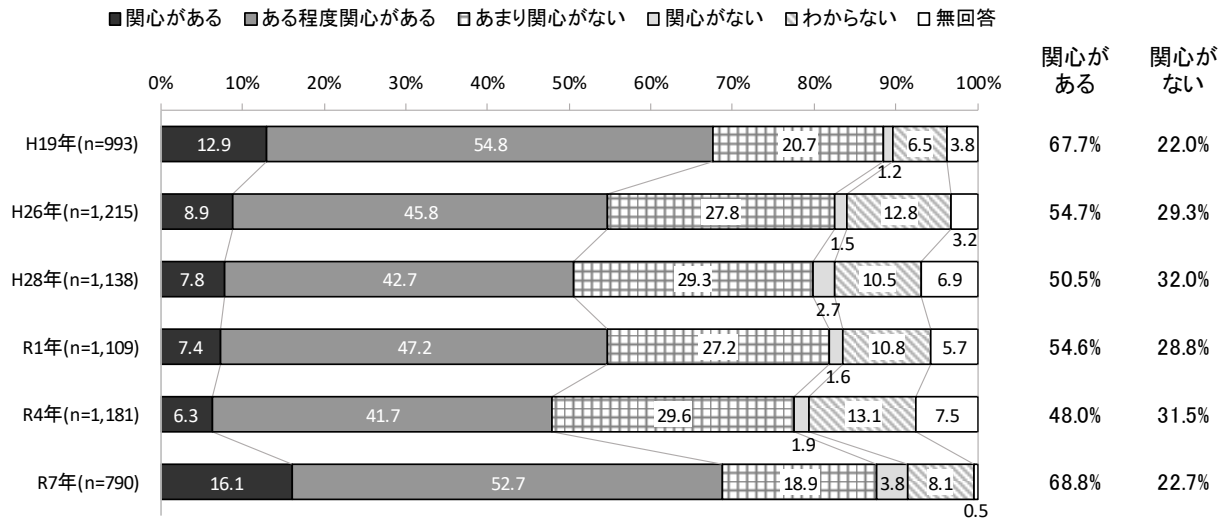
<障がいのある人との関わり状況別>



<経年比較>

関心がある人の割合が前回調査までは減少傾向にあったが、今回調査では増加し、およそ7割となっており、平成19年調査を上回っている。

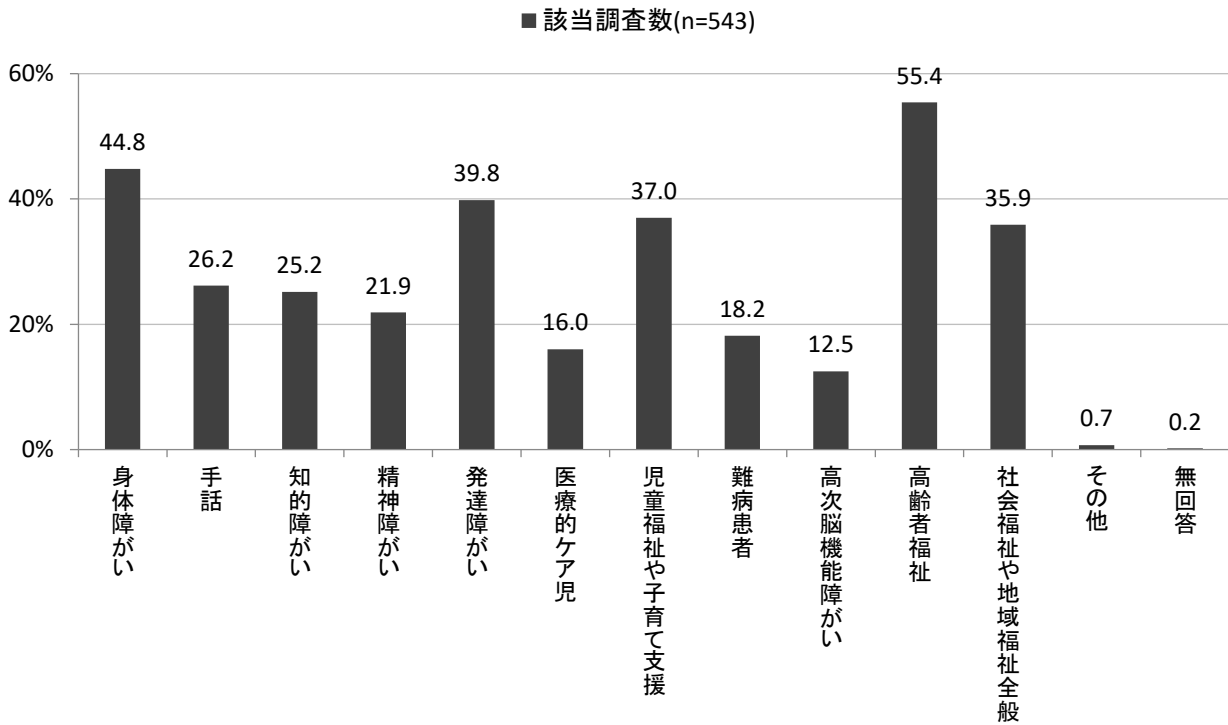
なお、前回調査までは「とても関心がある」「まったく関心がない」としていた選択肢を「関心がある」「関心がない」に変更している。



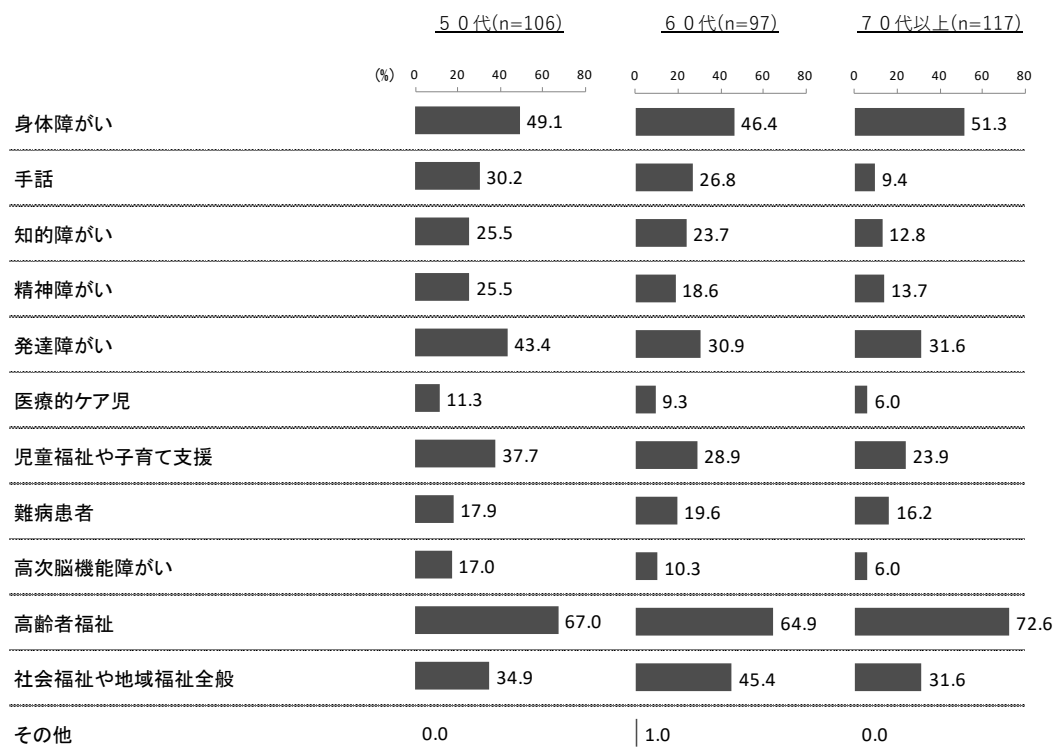
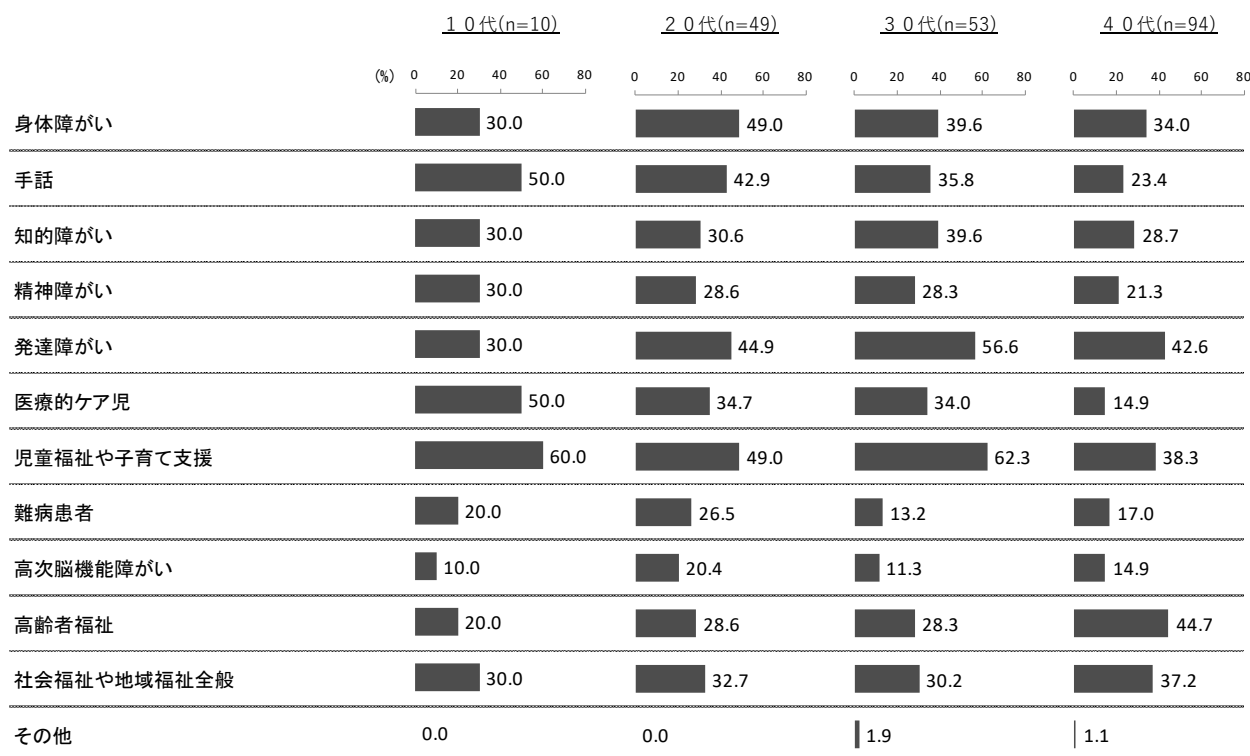
問 13 問 12 で「関心がある」、「ある程度関心がある」場合、あなたが関心のある福祉の分野は何ですか。(いくつでも)

関心を持っている人に対し、関心のある福祉分野をたずねたところ、「高齢者福祉」55.4%が最も高く、次いで「身体障がい」44.8%、「発達障がい」39.8%、「児童福祉や子育て支援」37.0%となっている。

年齢別で見ると、40代以上では、「高齢者福祉」が最も高くなっている。30代以下は、「児童福祉や子育て支援」が最も高く、20代・50代以上は、「身体障がい」も高くなっている。



<年齢別>

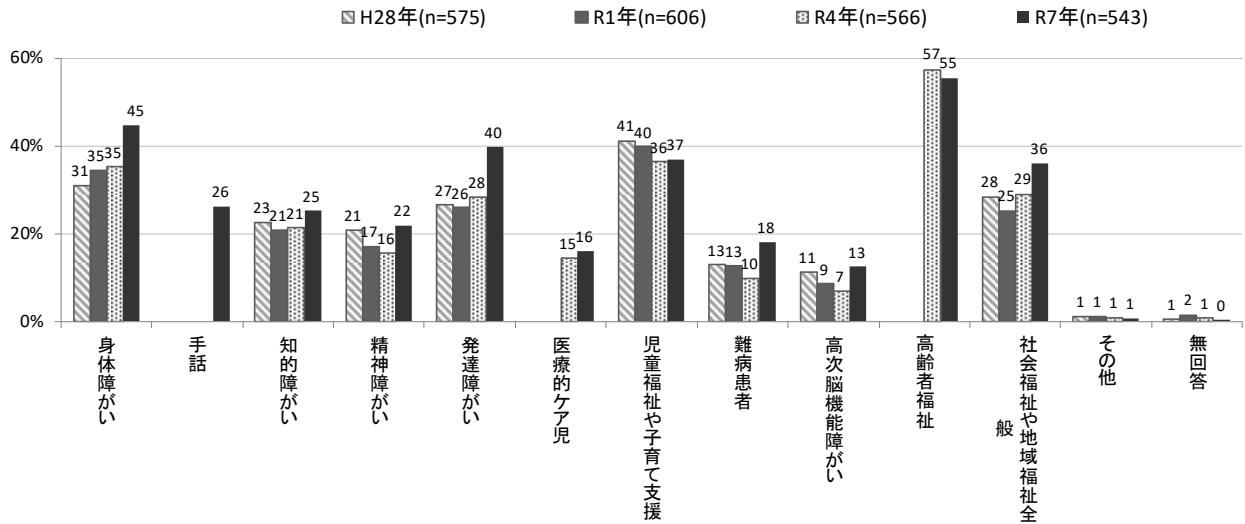


※「無回答」は件数0のため省略

<経年比較>

「児童福祉や子育て支援」は減少傾向にある一方、「身体障がい」「発達障がい」は増加傾向にあり、今回調査では特に増加している。

※「手話」は今回調査より新設。

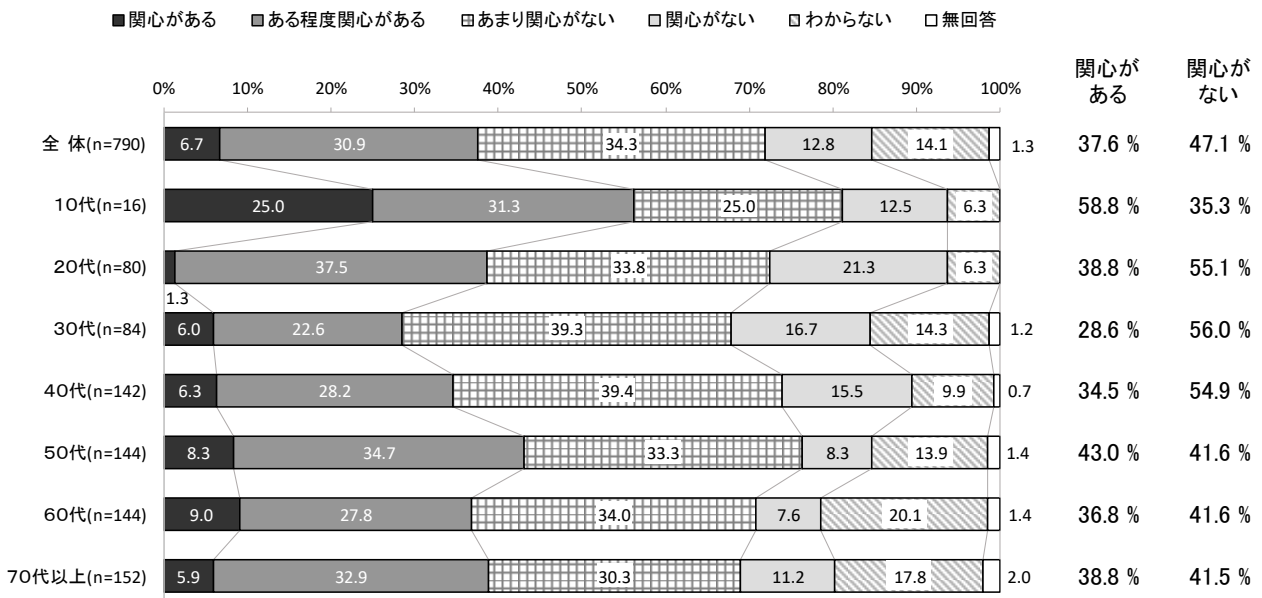


**問 14 あなたは、障がい福祉関係のボランティア活動への参加について関心がありますか。(ひとつだけ)**

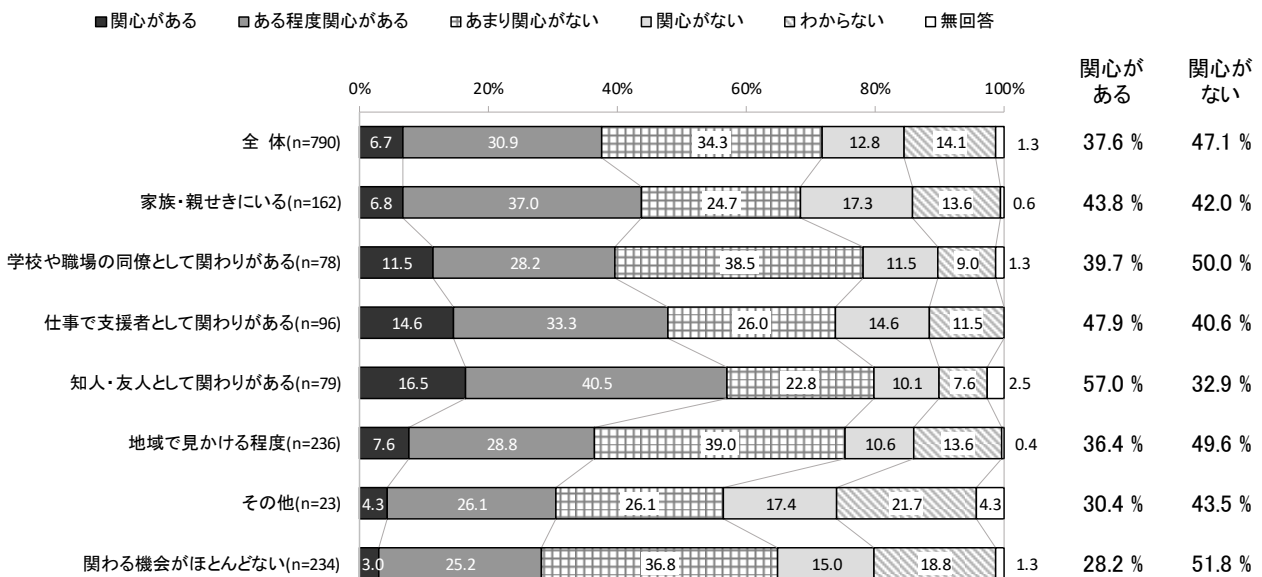
障がい福祉関係のボランティア活動への関心度について、全体では、「関心がある」6.7%、「ある程度関心がある」30.9%で関心のある人はおよそ4割となっている。

年齢別でみると、関心のある人の割合は10代でおよそ6割と高くなっている。一方、30代は関心のある人の割合は3割未満と低くなっており、関心がない人が56.0%と高くなっている。

障がいのある人との関わり状況別でみると、何らかの関わりがある人のほうが、関わる機会がほとんどない人と比べて、関心のある人の割合が高く、知人・友人として関わりがある人では57.0%と高くなっている。

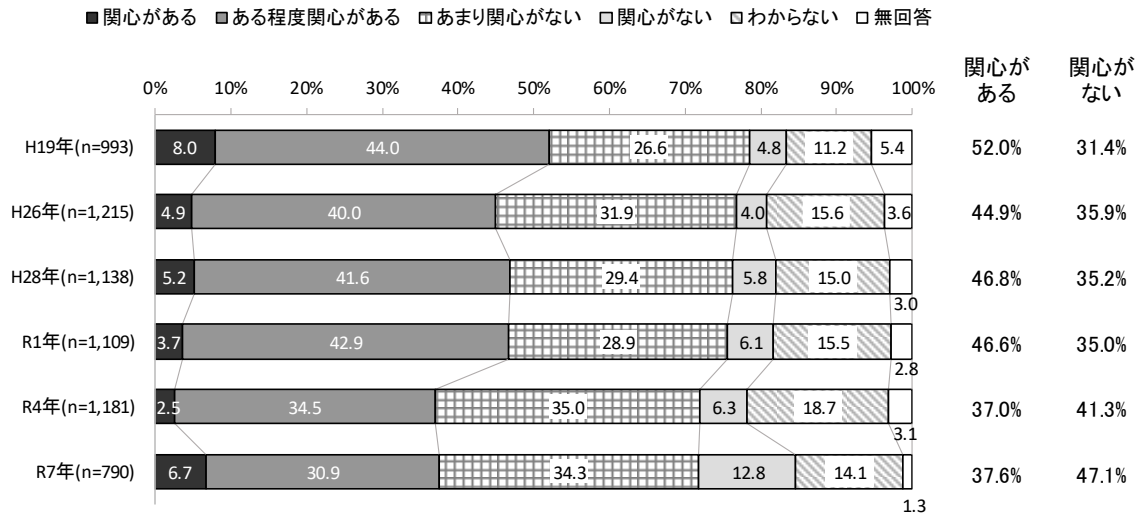


**<障がいのある人との関わり状況別>**



<経年比較>

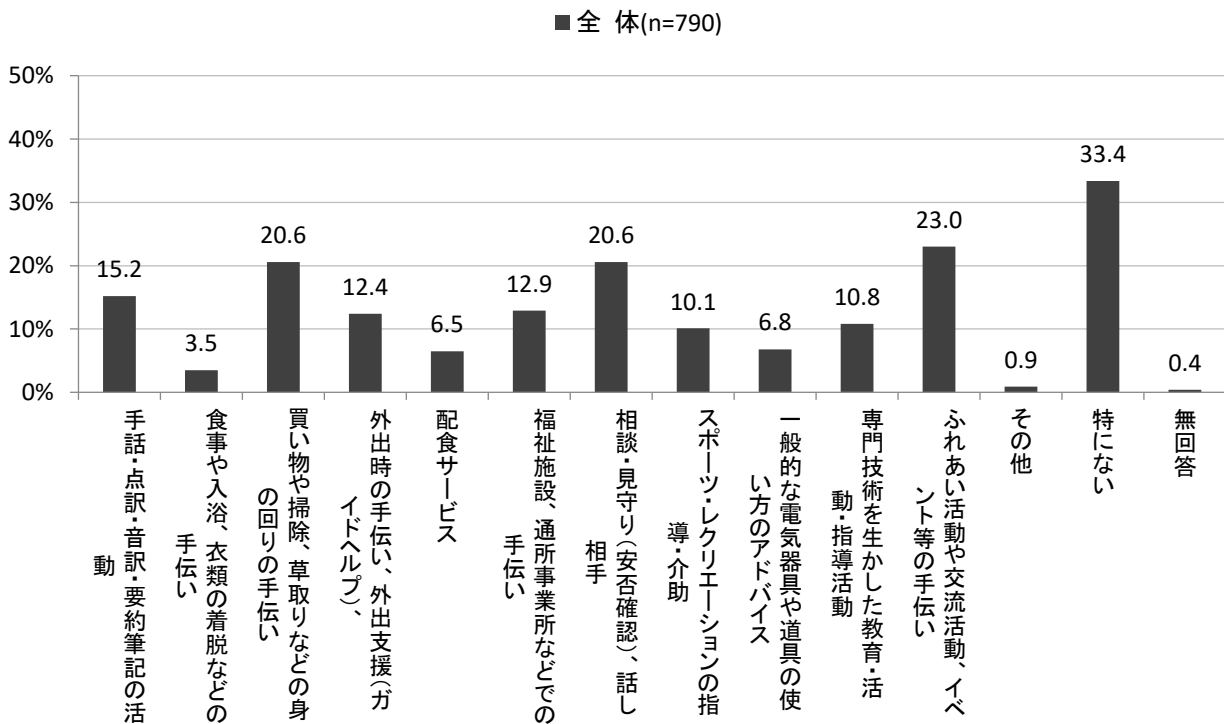
前回調査までは「とても関心がある」「まったく関心がない」としていた選択肢を「関心がある」「関心がない」に変更しているが、関心がある人の割合は減少傾向が止まらず、関心がない人の割合は増加傾向となっている。



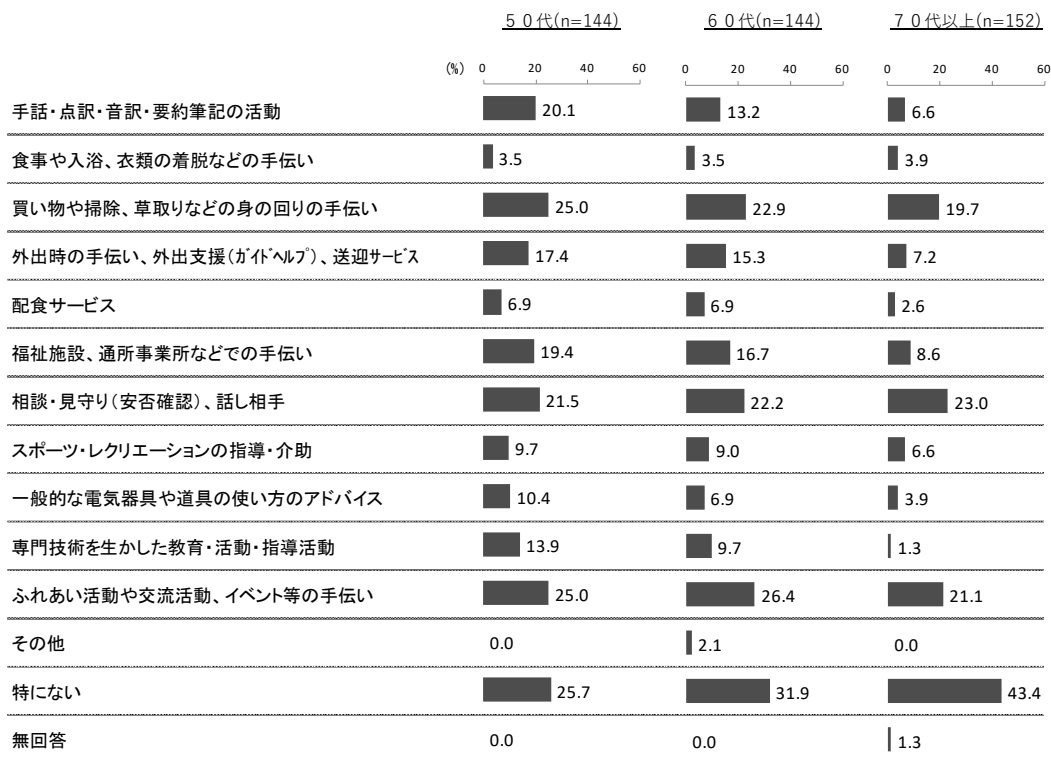
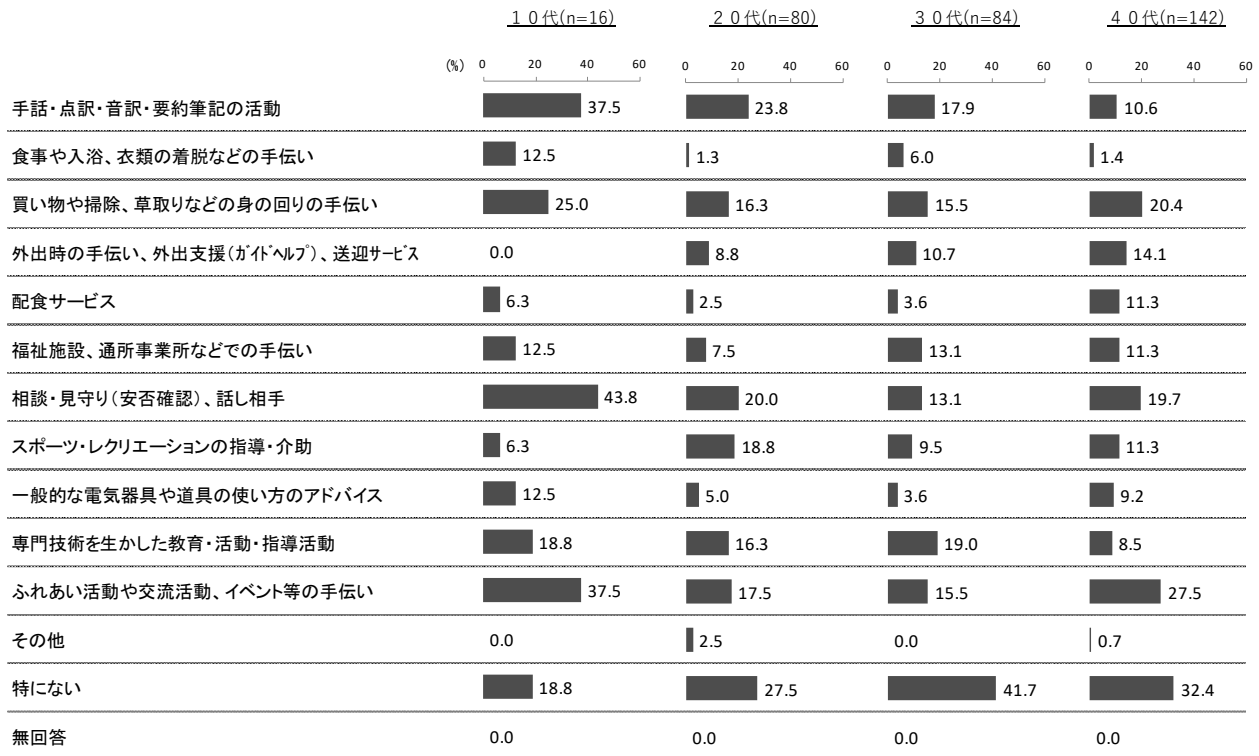
問 15 あなたが、ボランティア活動で参加したいと思うものを教えてください。(いくつでも)

今後参加してみたいボランティア活動については、「ふれあい活動や交流活動、イベント等の手伝い」23.0%、「買い物や掃除、草取りなどの身の回りの手伝い」20.6%、「相談・見守り、話し相手」20.6%、「手話・点訳・音訳・要約筆記の活動」15.2%の順となっている。

年齢別で見ると、40代以上では、「ふれあい活動や交流活動、イベント等の手伝い」が最も高くなっている。



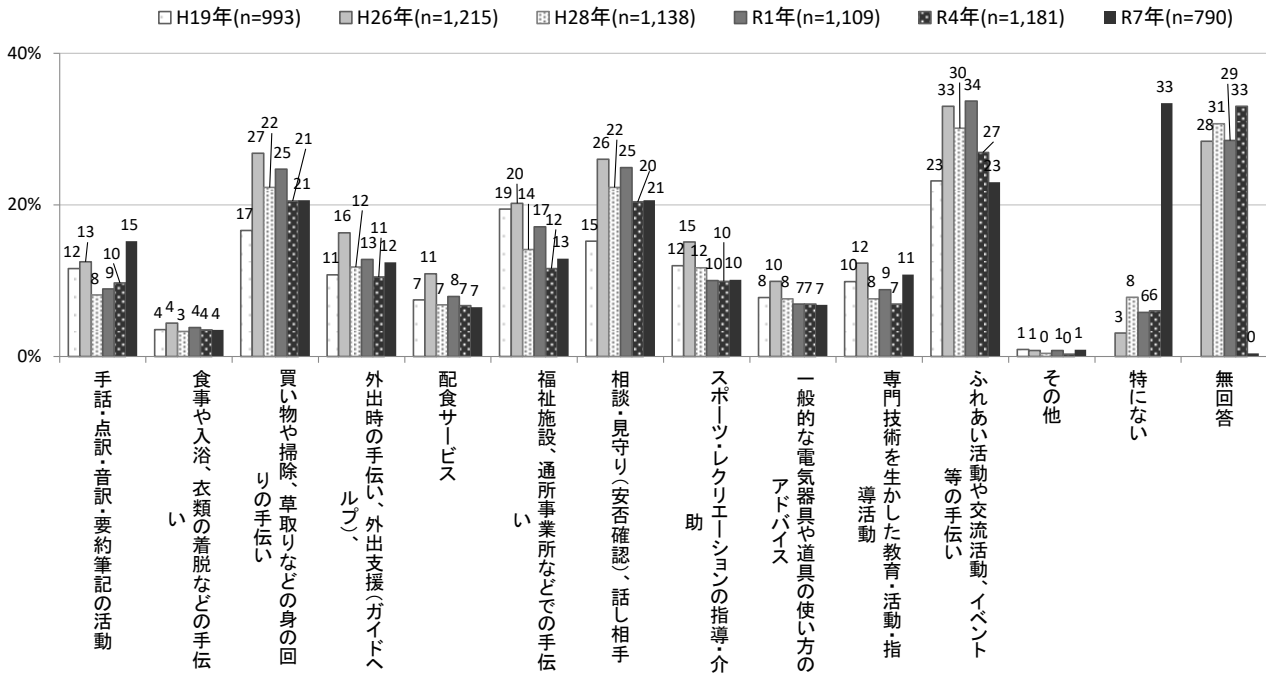
<年齢別>



<経年比較>

「手話・点訳・音訳・要約筆記の活動」は過去最も高くなったが、全体的に減少傾向となっている。

※令和4年調査までは回答数の上限を3つまでとしていたが、今回調査では上限なしとしている。また、令和4年までは郵送調査だったため、無回答が3割前後あったが、今回調査からオンライン回答となったことで無回答は大幅に減少し(今回0.4%)、「特にない」が増加している。



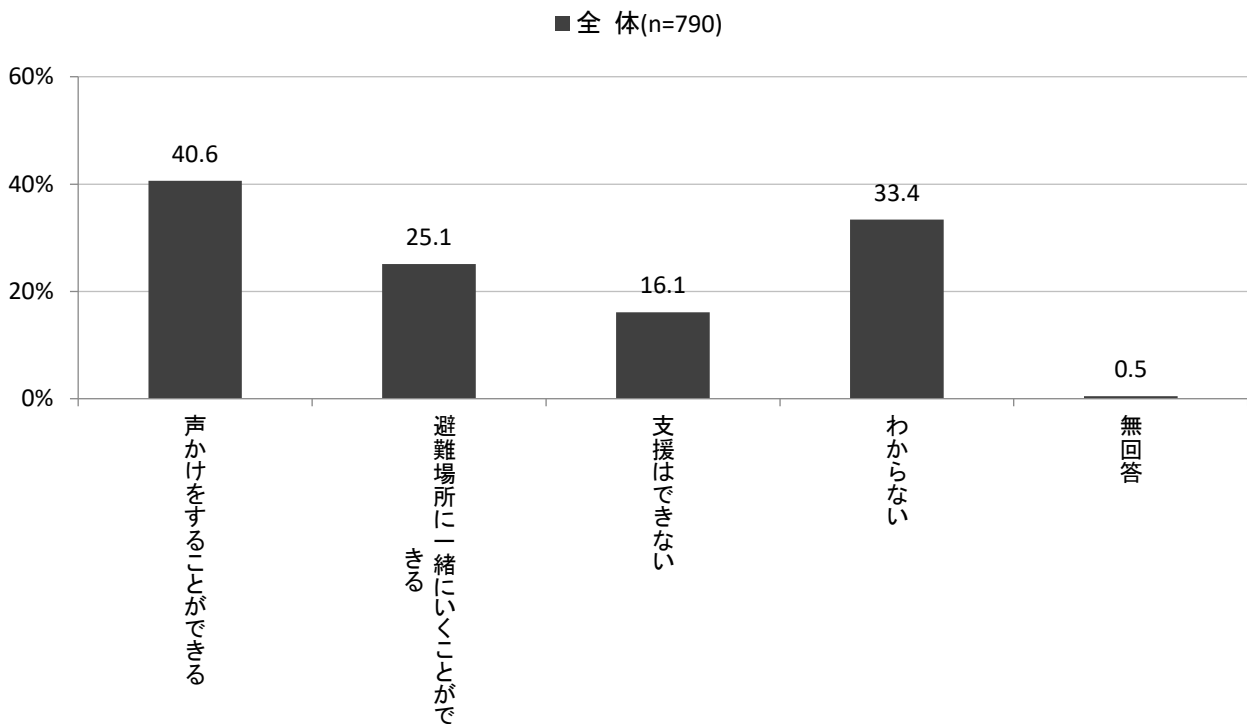
### 3. 障がいのある人の災害対策・就労について

#### (1) 災害対策について

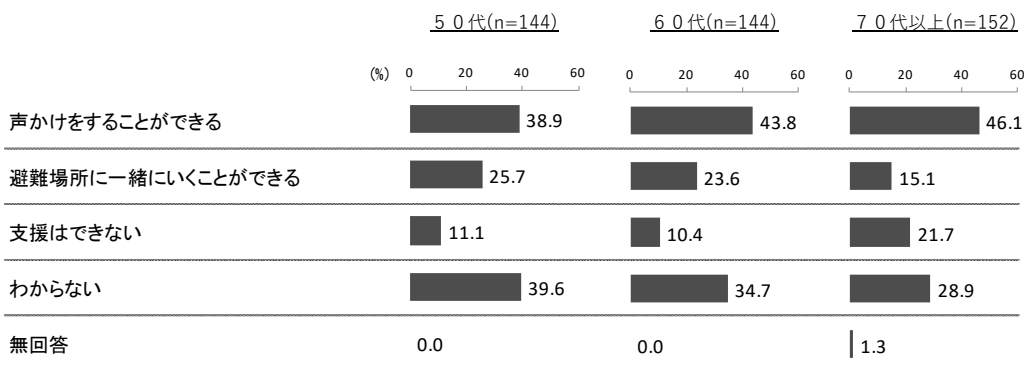
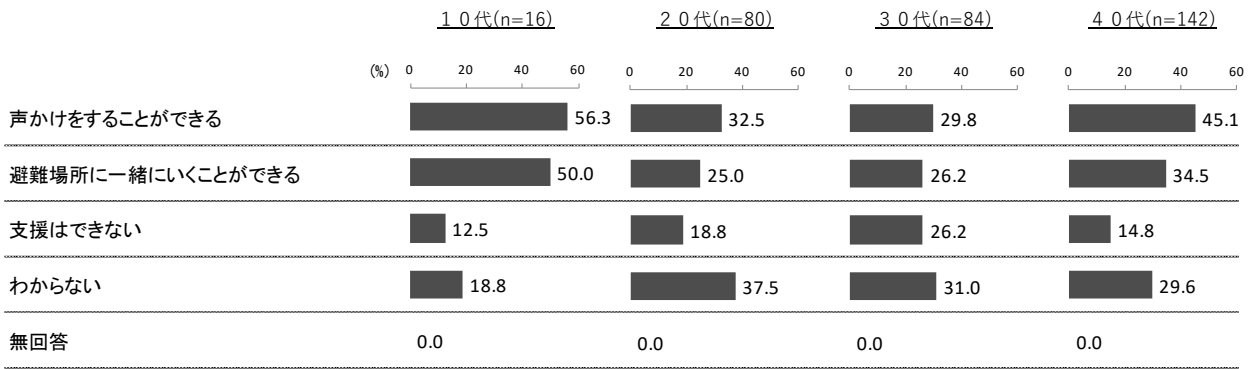
問 16 あなたは、大雨などでお住まいの地域に避難指示が発表されたときに、地域に住んでいる障がいのある人の避難行動を支援することができますか。(いくつでも)

障がいのある人に対し避難行動を支援できるかについては、「声かけをすることができる」40.6%が最も高く、次いで「避難場所に一緒に行くことができる」25.1%となっている。一方、「支援はできない」は16.1%となっている。

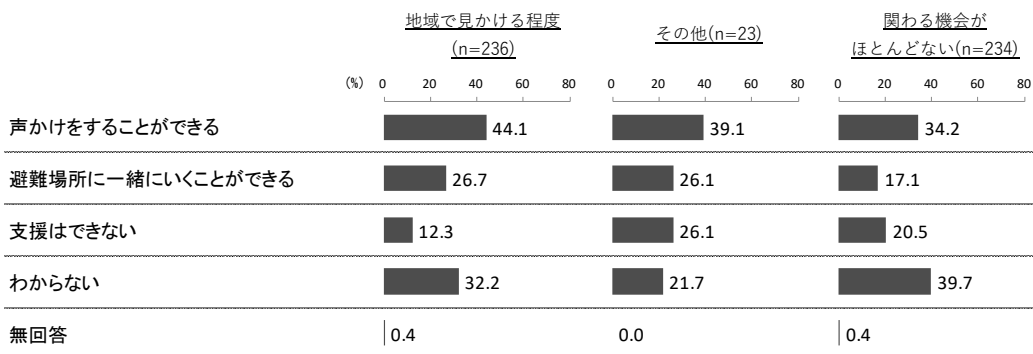
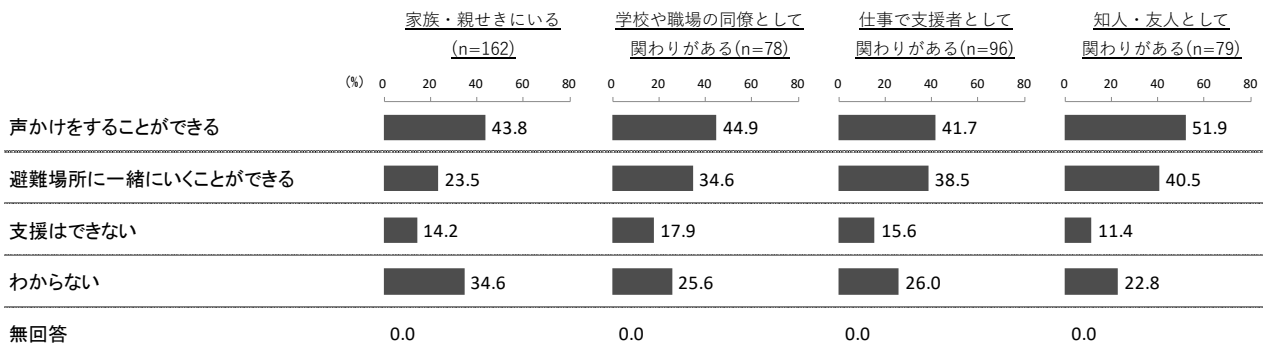
年齢別で見ると、全ての年代で、「声かけをすることができる」が最も高くなっている。また、30代で「支援ができない」26.2%が他の年代と比べて高くなっている。



<年齢別>



<障がいのある人との関わり状況別>

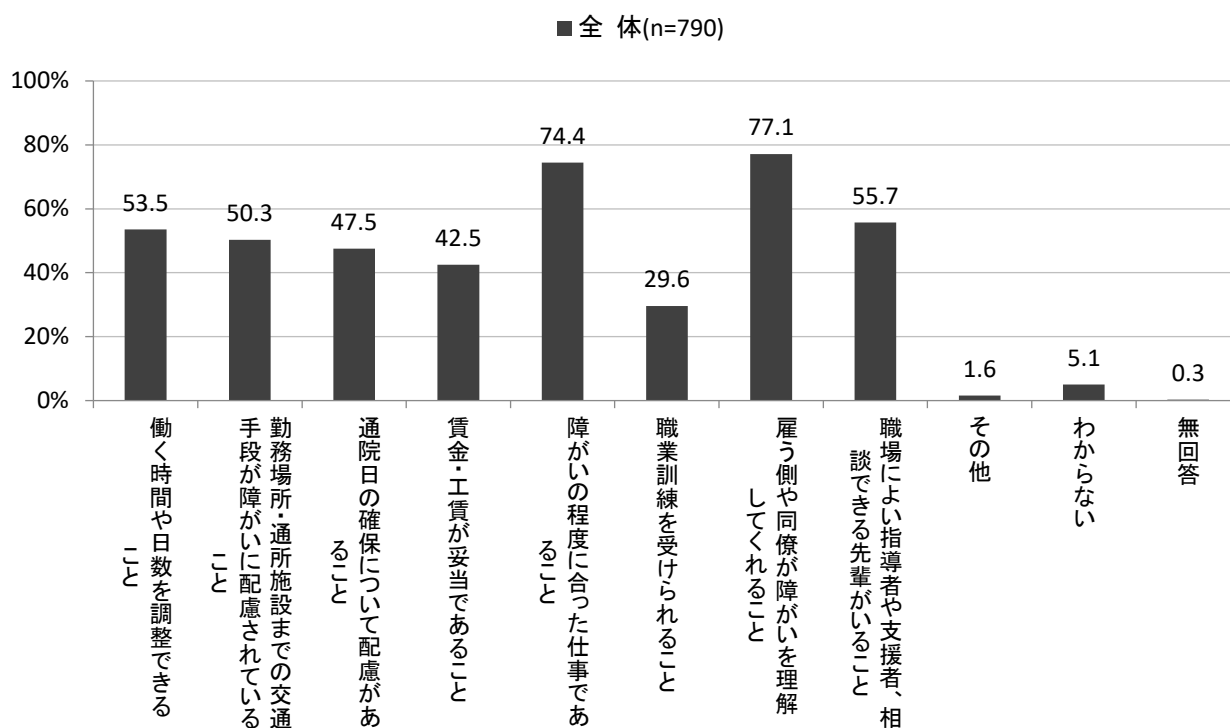


## (2) 障がいのある人の就労について

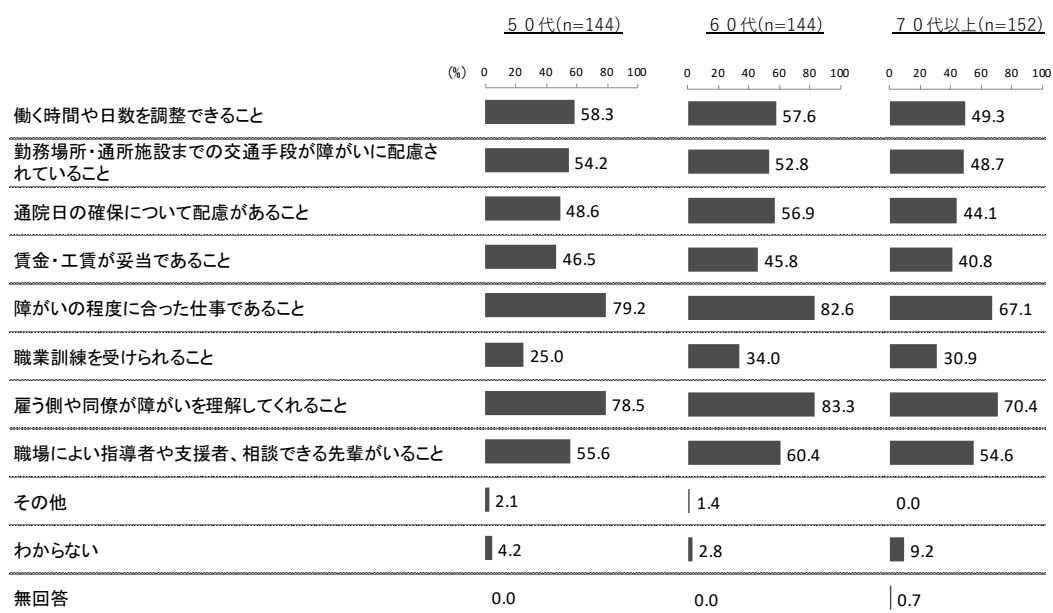
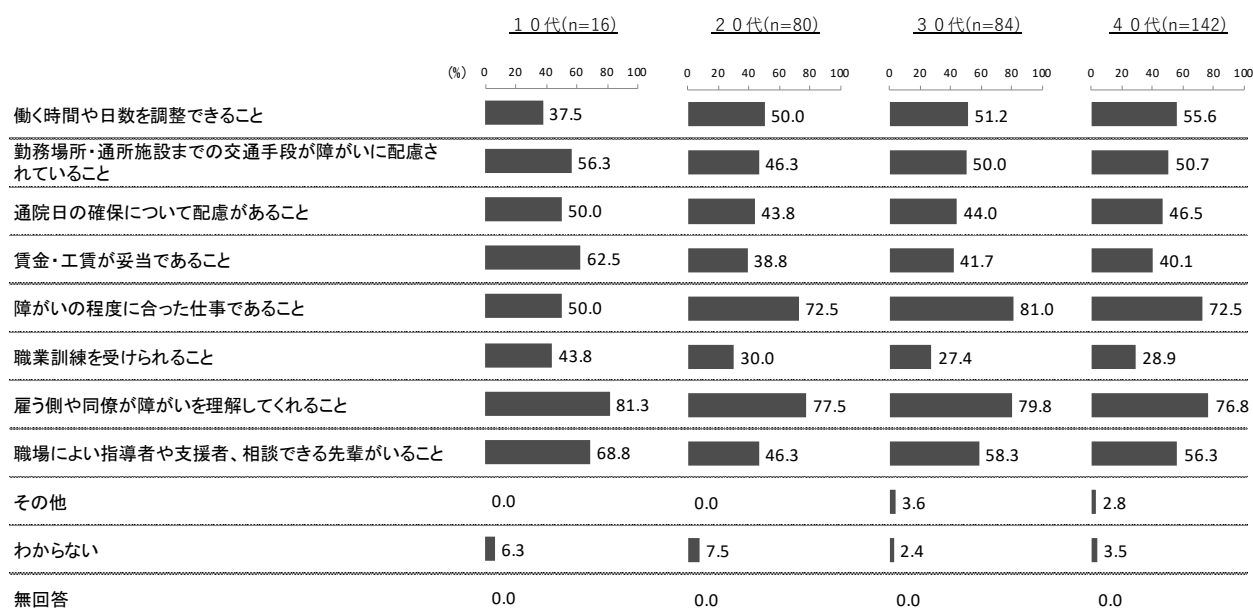
問 17 あなたは、障がいのある人と障がいのない人が一緒に働くときに、障がいのある人にとってどういった環境(配慮)が必要だと思いますか。(いくつでも)

障害のある人が働くために必要だと思われることは、「雇う側や同僚が障がいを理解してくれること」77.1%が最も高く、次いで「障がいの程度に合った仕事であること」74.4%、「職場により指導者や支援者、相談できる先輩がいること」55.7%、「働く時間や日数を調整できること」53.5%の順となっている。

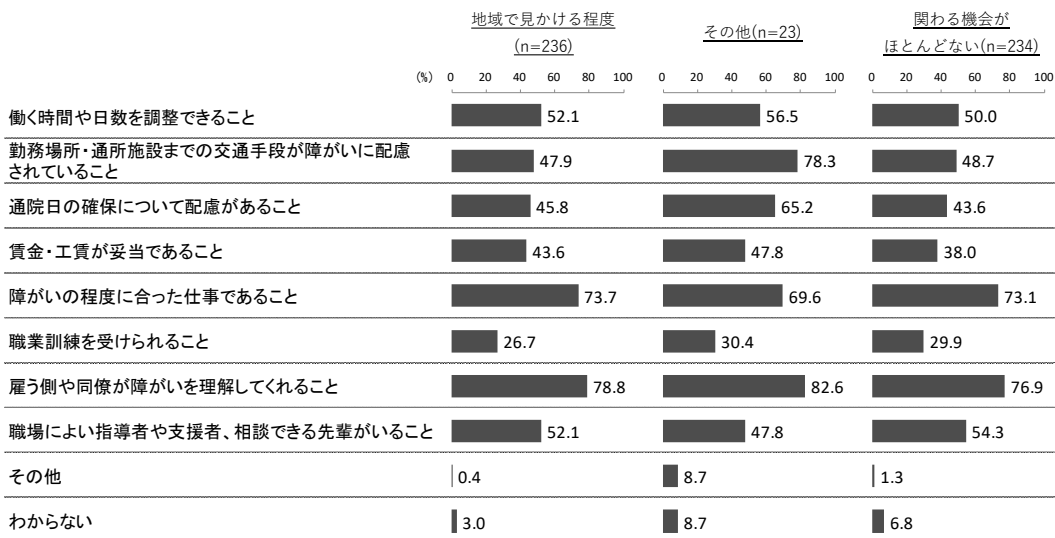
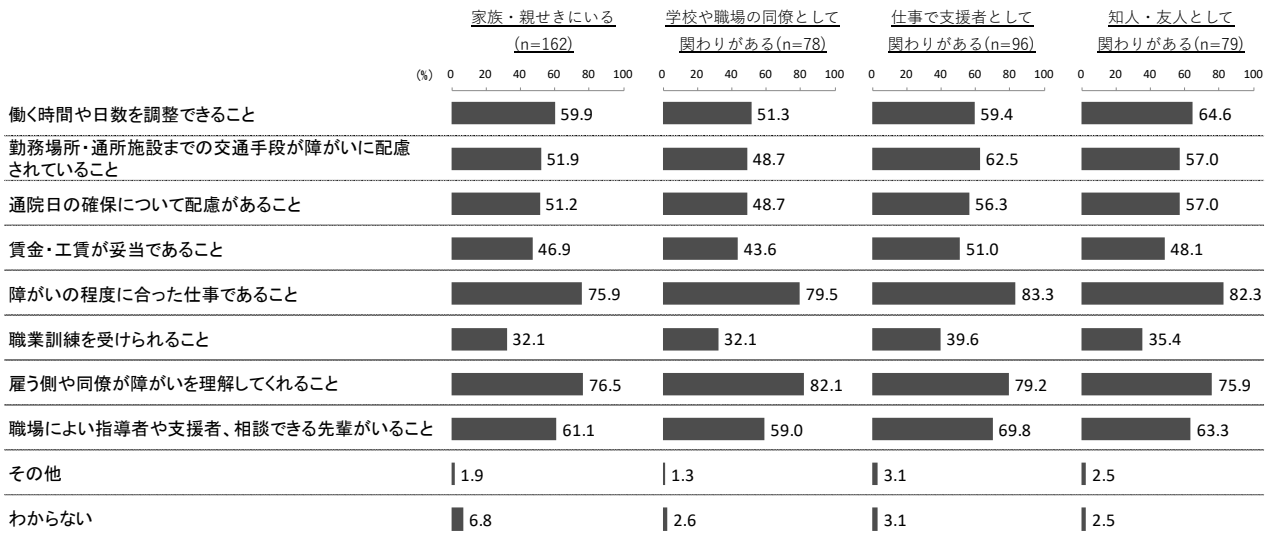
年齢別で見ると、20代以下・40代・60代以上では、「雇う側や同僚が障がいを理解してくれること」が最も高く、30代・50代では、「障がいの程度に合った仕事であること」が最も高くなっている。



<年齢別>



<障がいのある人との関わり状況別>



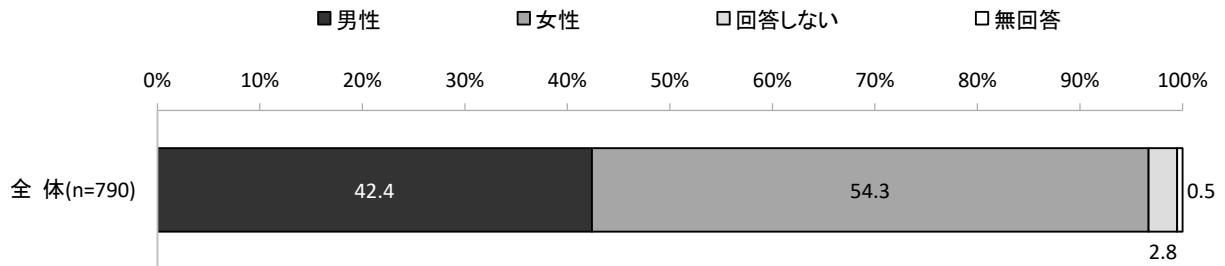
※「無回答」は件数0のため省略

## 4. 回答者属性

### (1) 回答者属性

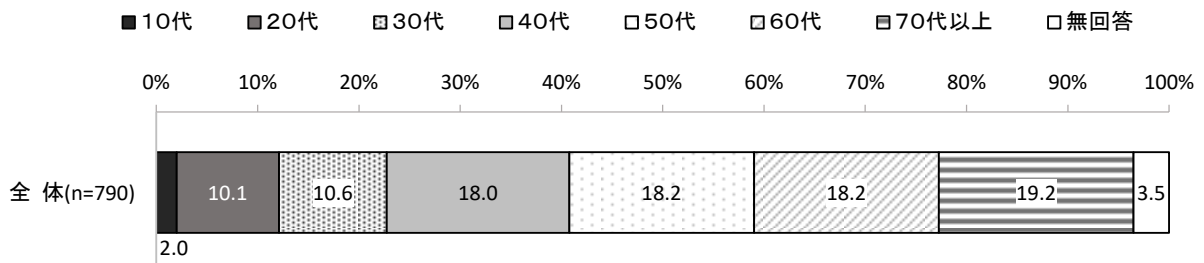
問 18 あなた(ご本人)の性別を教えてください。(ひとつだけ)

性別では、「男性」42.4%、「女性」54.3%と女性の割合が高くなっている。



問 19 あなた(ご本人)の年齢を教えてください。(数字を記載)

年齢では、「70代以上」19.2%が最も高く、次いで「60代」と「50代」18.2%、「40代」18.0%、「30代」10.6%、「20代」10.1%、「10代」2.0%となっている。



問 20 あなた(ご本人)が住んでいるところを教えてください。(ひとつだけ)

居住区では、「葵区」38.0%、「駿河区」30.0%、「清水区」30.8%となっている。

